

證憑書類並受拂計算書ヲ添へ仕拂後一週日以内ニ軍事課長ニ宛發送スヘシ但シ仕拂計算書受拂計算書ノ用紙ハ必要ノ都度之ヲ送付ス

第三十七條 不用トナリタル馬匹圖書器械等ヲ賣却シタルトキハ駐在員取締ハ收入官吏ノ資格ヲ以テ其ノ代價ヲ收納シ陸軍省所管歳入收納取扱規程ニ據リ處分スルモノトス

書式第一號第五號及第六號 削除
○陸軍第八十四號

外國留學生規則別冊ノ通改正ス

明治三十六年十月三日

陸軍大臣寺內正毅

(別冊)

外國留學生規則

第一條 本規則ニ於テ留學生ト稱スルハ陸軍在職及休職武官ニシテ軍事研究等ノ爲私費ヲ以テ外國ニ留學ヲ許サレタル者ヲ云フ

第二條 留學志願者ハ外國留學願書^{書式第一號}旅費及學費金支出明細書^{書式第二號}ヲ添へ所管長官ヲ經テ陸軍大臣ニ願出ヘシ

所管長官ハ前項出願者ノ學術性行能力及資産ノ狀況等ヲ調査シテ能ク留學ノ目的ヲ達シ得ヘシト確認スルトキハ狀ヲ具シテ留學願書ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 陸軍大臣前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ更ニ本人ノ性行學術等ヲ考査シテ允許ヲ請ケ共ノ願ヲ許可ス

第四條 休職武官ニシテ留學ヲ許サレタル者ハ其ノ休職タル資格ヲ變スルコトナシ

第五條 留學生ハ修學上ノ事ニ關シテハ總テ陸軍省軍務局長ノ指揮ヲ受クルモノトス

軍務局長ハ留學生ノ出發前所要ノ事項ヲ訓令スヘシ

第六條 留學生ハ留學許可ノ日ヨリ一箇月以内ニ出發シ又留學ノ期滿ルカ若ハ特ニ歸朝ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ翌日ヨリ二週日以内ニ留學國ヲ出發歸朝スヘシ

第七條 留學生ハ駐在員取締ヲ置ク國ニ在リテハ同取締ノ指揮ヲ受ケ共ノ他ノ國ニ於テ公使館附武官アルトキハ同武官ノ指揮ヲ受ケヘシ

第八條 留學生出發及歸朝ノ節ハ軍事課長^{留學地ニ到着若ハ宿所移轉ノトキハ駐在員取締ヲ經テ駐在員取締ヲ置カサル國ニ於テハ公使館附武官ヲ經テ又公使館附武官ノ在ラサル國ニ在リテハ本人ヨリ直ニ以下之ニ依テ}其ノ都度所管長官及軍務局長ニ届出ヘシ

第九條 留學中ハ毎年一月及七月ニ於テ學術調査報告ヲ駐在員取締ヲ經テ軍務局長ニ宛テ發送スヘシ

其ノ他必要ノ事項ハ前項ニ準シ臨時速カニ報告スヘシ

第十條 軍務局長ハ留學生修學上ノ成績共ノ他必要ト認ムル事項ヲ毎年十二月盡日迄ニ本人ノ所管長官ニ通報スヘシ

第十一條 學費ハ武官タルノ體面ヲ保テ修學スルカ爲少ナクモ一箇年金千五百圓^{清國及韓國ニ在リテハ金八圓}ヲ要スルヲ以テ旅費及學費金支出明細書ハ必ズ之ヨリ少ナカラサル金額ヲ支拂シ得ルコトヲ明記スヘシ但シ清國及韓國以外ノ外國ニ於テ驛馬^{コト}ヲ隊附セントスル者ハ馬匹費トシテ別ニ年額少クモ金壹千圓ヲ積算スヘシ

第十二條 留學生ハ何等ノ事情アルモ官ノ支給補助ヲ請フコトヲ得ス

第十三條 留學中病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲歸朝セサルヲ得サルトキハ其ノ趣ヲ詳記シ駐在員取締ヲ經テ陸軍大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十四條 留學生ニシテ學業成熟ノ目途ナク又ハ武官ノ體面ヲ汚スノ所爲アリテ永ク留學セシムヘカラスト認ムル者ハ留學年限中ト雖之ニ歸朝ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ該當スル者アルトキハ駐在員取締若ハ公使館附武官ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ具申スヘシ

(書式第一號) 外國留學願(正副三通用紙半紙) 某 儀

今般何學(學科ヲ詳細ニ)研究ノ爲何國ヘ向フ何留學期間私學留學仕度候ニ付御許可被成下度別紙旅費及學資金支出明細書相添此致奉願候也

年月日

陸軍大臣爵氏名殿

職官 氏 名 印

(書式第二號)

旅費及學資金支出明細書(正副三通用紙半紙)

一金 何 圓 但シ往復旅費

住路

所有現金

所有現金(公債證券利子或ハ何々ノ所得)ヲ以テ之ニ充ツ

第一年 月日 留學開始日ヨリ翌年 月日 留學終了日ヨリ

第一年 月日 留學開始日ヨリ翌年 月日 留學終了日ヨリ

所有現金(公債證券利子或ハ何々ノ所得)ヲ以テ之ニ充ツ

第二年 同前

第三年 同前

前書ノ旅費及學資金(馬匹費)引當金準備有之候間爲記明細書差出候也

年月日

陸軍大臣爵氏名殿

職官 氏 名 印

○陸軍第八十五號

一輪船重車及同軌具ノ制式ヲ別紙圖面ノ通改正ス 但シ既製ノ分ハ漸次改正ノ通修正ス (別紙略ス)

明治三十六年十月八日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第八十六號

裝蹄及別毛器械定數表中要塞砲兵射擊學校ノ部ニ別紙員數ヲ增加ス (別紙略ス)

明治三十六年十月九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第八十七號

陸軍武官増修給與規程中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺內正毅

明治三十六年十月十三日

第一條第一號中「各官毎ニ各兵科ヲ通シ」ヲ「各兵科各官毎ニ」ニ改ム

第三條中「上長官」及第一號ヲ削ル

第四條中「第六項」下ニ「第七項」ヲ加フ

第五條第一項但書中「第六項」下ニ「第七項」ヲ加フ

第六條第一號中「一等給ヲ給スルモノトス」其儘上級ノ俸給ヲ給スルモノトス但特別俸ヲ受クル
一等軍吏ヨリ一等副監督ニ轉スル者ハ一等給ヲ給スニ改メ第二號中「各兵科」ノ下ニ「經理部」ヲ加
第八條第二號中「藥劑監」及「獸醫監」ヲ削リ第四號中「各兵科」ノ下ニ「及經理部」ヲ加ヘ「及經理部計
手」ヲ削ル

○陸軍第九十八號

明治二十年八月陸軍省通達第九十八號橋樑材料圖彙圖解中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十六年十月十四日 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十九號

陸軍勤務演習教令中左ノ通改正ス

明治三十六年十月十六日 陸軍大臣寺內正毅

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 師團長ハ將校同相當官ノ職時職務上特ニ必要アルトキハ第四章ノ規定ニ拘ラス臨時
召集ヲ爲スロトヲ得

○陸軍第九十九號

明治二十四年陸軍省通達第一百十四號陸軍備人服制中左ノ備考ヲ加フ (追加略ス)

明治三十六年十月三十日 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十二號

陸軍監獄看守陸軍看守及陸軍備人被服給與規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十月三十日 陸軍大臣寺內正毅

陸軍大臣寺內正毅

第一表ニ左ノ備考ヲ加フ

第七師團內 第七師團內ニ在勤ノ者ノ被服料ハ尋病人ノ給與工ハ甲種貳拾陸圓七拾錢乙種
八圓貳拾八錢拾分小使ハ甲種拾七圓五錢乙種七圓壹拾九錢トス

第二表備考第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三 第七師團內 尋病人ノ在勤ノ尋病人踏鐵工給仕小使ニ在リテハ冬衣袴二組ノ内一組ハ紺絨
製ノモノトス

○陸軍第九十二號

下士以下赴任スルトキ又ハ候補生及生徒入校者ハ歸隊ノトキハ自今刀劔ヲ佩用セシメス

明治三十六年十月三十一日 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十三號

明治三十五年陸軍省通達第六十號兵器取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十月三十一日 陸軍大臣寺內正毅

陸軍大臣寺內正毅

一目次中第十二章ノ一行ヲ削リ第十三章ヲ第十二章ニ改メ

第十二章赴任ノ際佩用刀取扱手續全部ヲ削ル

第十三章ヲ第十二章ニ改メ

第七十五條ヲ第六十七條ニ改メ以下順次繰上フ

第八表備考第二項中「支廠軍隊學校保管ノ各種赴任用刀劔」ニ屬スル第二類兵器並ヲ削ル

○海軍省通達第九十六號

信號練習生規則左ノ通改正ス

明治三十六年十月五日 海軍大臣野崎山本權兵衛

信號練習生規則

- 第一條 信號練習生トハ信號兵曹信號兵及四等水兵ニシテ海兵團ニ於テ信號及通信術ノ教育ヲ受ル者ヲ謂フ
- 第二條 信號練習生ハ分テ左ノ二種トス
 - 一 普通科練習生
 - 二 高等科練習生
- 第三條 普通科練習生ハ五等卒教育規則第七條ニ依リ三箇月以上五等水兵ノ教育ヲ受ケタル志願兵中ヨリ左ノ諸號ニ適合スル者ヲ撰拔シ四等水兵ニ進級セシメ之ヲ命スルモノトス
 - 一 視聽力完全齒列正整且品行方正ナル者
 - 二 稟性銳敏活潑ニシテ理解力ニ富メル者
 - 三 讀書ヲ愛シ作文通俗算術四ヲ解シ得ル者
- 第四條 高等科練習生ハ信號適任證書ヲ有スル一等信號兵曹以下二等信號兵以上ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ撰拔ス
 - 一 視聽力完全品行方正ナル者
 - 二 稟性銳敏活潑ニシテ理解力ニ富ミ技術發達ノ見込アル者
 - 三 一等信號適任證書ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上ノ勤務ニ服シタル者
 - 四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- 第五條 高等科練習生及普通科練習生ノ人員ハ所要ニ從ヒ鎮守府毎ニ區分シテ之ヲ告達ス前項ノ告達アリタルトキハ高等科練習生ニ在テハ鎮守府司令長官共ノ採用スヘキ員數及期日ヲ

定メ之ヲ令達シ同時ニ艦隊司令長官及要港部司令官ニ通報スヘシ海軍教育本部長ニ通報スルモ亦同シ普通科練習生ニ在テハ本則第三條ニ依ル

第六條 普通科練習生ノ學期ハ凡ソ九箇月ニシテ其ノ教程ハ左ノ如シ

- 一 信號及信號器具 (海軍用諸信號法、海軍船舶信號法及所用羅馬字、氣象信號海上衝突預防法諸號日誌記(註法)甲板日誌記註法諸號火術及火)
- 二 船燈、放章及陣形等 (海上衝突預防法ニ關シテ船燈、船陣ニ用フル區別燈、外國放章、艦船ノ識別、艦隊運動ニ用フル區別放章、陣形及辨別名稱)
- 三 喇叭 (辨別及辨力音響吹別及符號海軍用諸號音響吹別辨別力)
- 四 通信器及測器 (電話機、モールス、顯字機、發音機及其ノ電池ノ大要、摩訶計、晴雨計、測程儀、測深器、顯針儀)

別科

- 一 銃隊操練(各個)小銃射擊教範ノ摘要
- 二 讀書算術

第七條 高等科練習生ノ學期ハ凡ソ五箇月ニシテ其ノ教程ハ左ノ如シ

- 一 電氣通信術 (電氣學ノ初步、電氣通信器具、無線電通信術)
- 二 接針 (接針ノ作用、接針及應急法顯針圖ノ構造及效用ノ大要、航路標識ノ種類)
- 三 第六條ノ細目復修
- 別科
- 一 普通科練習生別科目英語初步
- 二 距離通報器六分儀三秤分度儀及距離測定儀ノ使用法
- 三 本邦及鄰邦主要ナル島嶼港灣望樓ノ位置
- 四 放章條例及敵艦式摘要

第八條 鎮守府司令長官ヨリ高等科練習生採用ノ令達アリタルトキハ各所轄長ハ各共ノ練習生ニ適合スル者ヲ擧げテ所見表ヲ添ヘ其ノ官職氏名ヲ各本籍海兵團長ニ通知スヘシ

第九條 海兵團長ハ前條所見表ニ依リ高等科練習生ニ採用スヘキ者ヲ選擇シ其ノ入團期日ヲ定メ鎮守府司令長官ニ具申スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ依リ共ノ人名及入團期日ヲ定メ各所轄長ヲシテ練習生ヲ命シ期日内ニ入團セシムルベシ

海兵團長ハ入團シタル練習生ノ等級人名ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ教育本部長ニ移牒スヘシ

海兵團長ハ高等科練習生ニ採用セサル者ノ所見表ヲ艦團共ノ他各部ノ長ニ返附シ艦團共ノ他各部ノ長ハ服役期限ノ誓約ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ誓約ヲ解除スヘシ

第十條 卒業試験ハ學期ノ終ニ於テ行フ卒業試験ニハ別科ノ外全學期間ニ教授シタル各科目ヲ試験ス

第十一條 卒業試験ノ及第點數ハ各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス

第十二條 卒業試験ニ及第シタル高等科練習生ニハ高等信託修業證書ヲ授與シ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他ノ各部ニ復歸セシム又普通科練習生ニハ信託適任證書ヲ授與シ三等信託兵ヲ命スルモノトス

卒業試験ノ成績ハ之ヲ履歷ニ記入スヘシ

第十三條 信託適任證書ハ試験ノ成績ニ應ジ左ニ分ツ

- 一 試験全點數十分ノ七以上ヲ得タル者ヲ一等トス
 - 二 試験全點數十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ二等トス
- 第十四條 練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ團長之ヲ免シ高等科練習生ニ在テハ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復歸セシム但シ普通科練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ其ノ科目ニ就キ再試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ二等信託適任證書ヲ授與シ三等信託兵ヲ命スルモノトス
- 第十五條 二等信託適任證書ヲ有スルモノニシテ二箇年以上ヲ總通シ實務及技術修業ニシテ進歩ノ實跡アルモノト認ムルトキハ所轄長ハ檢定要求書ト共ニ所見表ヲ本籍海兵團長ニ送附ス海兵團長ハ便宜檢定試験ヲ行ヒ及第者ニハ一等信託適任證書ヲ授與スルコトヲ得
- 第十六條 海兵團長ハ信託兵練習ニ關スル細則及教則ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先テ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス
- 第十七條 海兵團長ハ信託練習生教育主任ヲ定メ細則及教則實施ノ責ニ任セシムヘシ
- 第十八條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ
- 第十九條 普通科練習生左ニ掲ル諸號ノ一ニ該ルト認ムルトキハ海兵團長之ヲ免シ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ
- 一 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者
 - 二 信託兵タルニ適セザル者
- 第二十條 高等科練習生左ニ掲ル諸號ノ一ニ該ルトキハ海兵團長之ヲ免シ各共ノ前所屬ノ艦團共

ノ他ノ各部ニ復歸セシメ領守府司令長官ニ報告スヘシ

一 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ前途ナキ者

二 高等科練習生タルニ適セサル者

第二十一條 本則第十二條第十四條及第二十條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘキモノニシテ事故アリ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時留該海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各共ノ前所屬艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

所見表

(高等科信託練習生トナスヘキモノ)

身 體 及 視 聽 力	官職姓名
	及年齡
服 役 年 數	現役滿期ノ年月日ヲ配シ本人ヲシテ捺印セシム(卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ初期アル場合) 現役滿期ノ年月日ヲ配シ(卒業後信託練習生規則第四條ニ據リ何年月間現役ニ服スヘキコトヲ實約スルト配シ本人ヲシテ捺印セシム(卒業後現役ニ服スヘキ規定ノ初期アリタル場合))
品 行	
性 質	
學 業	
實 績	
長 官 技 能	

所見	所見ノ件ハ本職擔任ノ責ニ任ス
何	(指被上參事ニ安スヘキ事項ヲ詳細ニ記載スルヲ要ス)
年 月 日	
右高等科信託練習生ニ適格スルモノト認ム	
分隊長	官姓名印
所轄長	官姓名印

○海軍省通第九十七號

下士卒教員資格ニ關スル規定第一號中ノ「一等信託適任證書」ヲ「高等信託修業證書」ニ第二號中ノ「二等信託適任證書」ヲ「信託適任證書」ニ改ム

明治三十六年十月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第九十八號

軍艦水雷艇ノ操舵裝置中舵角指示器及操舵車ハ自今左ノ通裝置スヘシ

明治三十六年十月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

一 舵角指示器ノ指針ハ面標ナルトキハ右舷ニ取楫ナルトキハ左舷ニ指示スル裝置タルヘキコト

一 操舵車ハ面標ナルトキハ其ノ上部ヲ右舷ニ回轉シ取楫ナルトキハ其ノ上部ヲ左舷ニ回轉スル裝置タルヘキコト

○海軍省通第九十九號

明治二十五年通第七號海軍省通第九十九號第三項ヲ左ノ通改ム

明治三十六年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

一前項ノ旨意ニ基キ戰時ヲ除クノ外實射並空放共發放後必ス清水ヲ以テ直ニ之ヲ洗淨シテ格納シ
置キ最寄邊兵廠若クハ兵器廠ニ還納スヘシ邊兵廠若クハ兵器廠ニ於テハ之ヲ次項ノ洗淨法ニ據
リ洗淨シタル上機裝スヘシ

○海軍省通令第一號

海軍軍人軍屬ニテツラナル者ノ旅費支給ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一項 他官廳ノ官吏以下ヲ旅行セシムルトキハ内國旅費規則及外國旅費規則ニ依リ公衙ノ吏員
以下ヲ旅行セシムルトキハ其ノ公衙ニ於テ別ニ定ムル規程ニ依リ之ヲ支給ス

第三項中「トキハ」ノ下ニ職工人夫給與規則別表第八第九ノ場合ヲ除クノ外ヲ加フ

○海軍省通令第一號

職工人夫給與規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

臨時停業ヲ命ジタルトキハ其ノ停業マテノ服業ヲ一エトシ賃錢ヲ給ス

第三條中時刻ヲ時限ニ改ム

第五條 職工ヲ定時間外ニ服業セシメタルトキハ一時間(一時間ニ計算ス)毎ニ賃錢十分ノ一以
内ヲ給ス

停業時限後三時間外ヨリ起業時間マデノ間ニ服業セシメヌハ特種ノ事業ニ服セシメタルトキハ
前項賃錢ノ外尙別表ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

停業時限後起業時限マテ當直トシテ體給ニ服務セシメタルトキハ一時間毎ニ賃錢三十分ノ一ヲ
給ス

第五條ノ二 職工ニ臨時出業ヲ命ジ服業セシメタルトキハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ職工停業時限前ニ退業スルトキハ服業時間ニ對スル賃錢ノ半額ヲ給ス

第五條ノ三 職工定時間外若クハ公假日ニ於ケル天災其ノ他非常ノ場合ニ出場シ防禦ニ從事スルト
キハ賃錢及加給ヲ給セス一時間毎ニ賃錢十分ノ一若クハ十鐘以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第六條 夜業ヲ水務トシ職工ニハ定時間ノ服業ニ對シ賃錢ノ三割以内ヲ増給ス

第八條中「トキハ」ノ下ニ「若クハ工業ノ都合ニ依リ停業ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌日ヨ
リ停業日數中(公假日)ニ改ム

別表第一欄中「定時間外服業」ヲ「停業時限後三時間外ヨリ起業時限マテノ服業」ニ時限三時間ヲ「時
限後三時間」ニ始業ヲ「起業」ニ改ム二十分ノ一及十分ノ一ノ下ニ「以內」ヲ加フ、第二欄中「五十分
ノ一」ノ下ニ「以內」ヲ加フ、第八欄中「港外ニ出張」ヲ「定業港外ニ出張」ニ改ム同欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ
加フ

第一欄ニ於ケル端時間ハ三十分以上一時間ノ間ヲ給ス
第二欄ニ於ケル端時間ハ三十分毎ニ第四ニ於ケル端時間ハ十分毎ニ一時間ノ間合額ヲ給ス
第五乃至第九ニ於ケル端時間ハ一時間未満ヲ計算セス
第八第九ニ於ケル服業二日以上ニ及ブトキハ出航ノ日ヨリ附帯ノ前日マテ日數ニ應シ別ニ四十
鐘以内ノ加給ヲ給ス

第 九	船舶ニ乘組定數港 外ニ出航中ノ服業	運糧兵ノ他ノ事業	一圓乃至二圓五厘
-----	----------------------	----------	----------

船具工場ニ使役スル職工ニハ橋上及艦船修繕上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服装ニ對シ第七ノ加給ヲ給セズ
 本表ニ掲タル事業ニシテ二種以上同時服業スルトキハ第一第二ヲ除クノ外多額ノ一種ニ就キ加給ヲ給ス

○海軍省令第百三號

明治三十三年連第四號別表中(造船職工)及別表ノ二ヲ削除ス

本表ハ明治三十六年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省令第百三號

海軍大臣男爵山本權兵衛

本年連第六十五號海軍造船材料試驗規格設備製造用鋼材鐵材ノ部總則(4)ヲ左ノ通改メ機關製造用材料ノ部及船體用鋼材真鍮材並鉛材ノ部別紙ノ通追加ス (改正追加略ス)

○海軍省令第百四號

海軍大臣男爵山本權兵衛

鎮守府會計監督規程第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十六年十月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

前項第一號ノ圖書作製ハ遠隔ノ地ニ於テ施行スル工事ニ在テハ監督ノ爲メ出張スル技術官ニ委任スルコトヲ得

○海軍省令第百五號

明治三十年連第百三十六號第七號ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十六年十月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一號ノ圖書作製ハ遠隔ノ地ニ於テ施行スル工事ニ在テハ監督ノ爲メ出張スル技術官ニ委任スルコトヲ得

(參照)

明治三十年十月 海軍省令第百三十六號ハ會計規則及物品會計規則中海軍經理局所掌事項ノ件ナリ

○海軍省令第百六號

海軍艦隊下士卒教育規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十月二十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三十六條 基本長ハ焚火術獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年十二月一日ニ於テ前年十二月一日以後ニ施行セル艦艇機關高力運轉ノ際良好ナル成績ヲ得タルトキ各當直ニ在テ伎倆拔群ト認メタル者ヲ選抜シ焚火選手證狀(第三番式)ヲ與フヘシ

一 焚火選手ノ數ハ二千馬力以下ノ艦船ニ在テハ一名二千馬力以上ノ艦船ニテハ毎二千馬力(千馬力未満ノ端數)ニ付一名トス

二 焚火選手證狀ノ有効期限ハ翌年十一月三十日マテトス (番式中改正アリ略ス)

○海軍省令第百七號

艦艇機關高力運轉規則左ノ通定ム

明治三十六年十月二十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

艦艇機關高力運轉規則

第一條 艦艇機關高力運轉ハ艦艇機關ノ實況ヲ確認シ又機關部員ヲシテ機關ノ高力運轉ニ習熟セシムルヲ目的トス

第二條 高力運轉ヲ施行スヘキ艦艇ハ左ノ區別ニ據ルヘシ

一 在役及第一豫備ノ軍艦ハ凡ソ四箇月ノ間隔ニ於テ毎年三回

二 在役及第一豫備ノ驅逐艦及水雷艇ハ凡ソ三箇月ノ間隔ニ於テ毎年四回

第三條 高力運轉施行ノ時間及其ノ程度ハ左ノ諸項ニ據ルヘシ

一 軍艦ニ在テハ運轉時間ヲ十二時間トシ二回ハ内四時間自然通風全力ニ達スルヲ目的トシ八時間ハ其ノ五分ノ三ヲ以テ一回ハ十二時間ヲ通シ五分ノ三ヲ以テ繼續運轉スヘシ

二 驅逐艦ニ在テハ運轉時間ヲ六時間トシ内二時間ハ自然通風全力ニ達スルヲ目的トシ他ハ其ノ五分ノ三ヲ以テ繼續運轉スヘシ

三 水雷艇ニ在テハ運轉時間ヲ二時間トシ驅逐艦通風全力ノ八割ニ達スルヲ目的トシ繼續運轉スヘシ

四 自然通風全力ハ最近公試成績ノ程度ヲ標準トスヘシ

第四條 最近公試成績ニ於テ其ノ自然通風全力ニシテ艦艇要目表登錄ノ自然通風全力ノ五分ノ三以下ニ降下セシ艦艇ニ在テハ當時ノ自然通風全力ヲ以テ第三條ニ據リ運轉ノ全時間ヲ繼續運轉スヘシ

第五條 指圖圖ハ自然通風全力ニ於テ二回自然通風全力ノ五分ノ三ニ於テ毎四時間ニ一回撮取シ之ヲ成績表ニ添付スヘシ

第六條 所管長官ハ必要ト認ムルトキハ第二條ノ規定以外ニ臨時高力運轉ヲ施行セシメ又第三條ノ規定運轉時間以上繼續航走セシムルコトヲ得

第七條 本運轉ニハ驅逐艦巡洋艦通報艦驅逐艦水雷艇ニ在テハ第一種炭ヲ使用スヘシ

第八條 所管長官ハ必要ト認ムルトキハ本運轉ノ施行ヲ延期若ハ停止セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 高力運轉ヲ施行シタルトキハ別表様式ニ據リ其ノ成績二通ヲ圖製シ所管長官ニ提出シ所管長官ハ意見アルトキハ之ニ附シ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十條 本運轉ノ成績其ノ目的ニ達セザリシトキハ其ノ理由ヲ詳細成績表ニ記入報告スヘシ

(別表略ス)

○海軍省達第百八號
明治三十年九月二十四日達第百號高力試驗規則ヲ廢ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百九號
明治三十六年十月二十三日
佐世保鎮守府在籍
軍艦 操 江

右帝國軍艦籍ヨリ除カル
明治三十六年十月二十六日
海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十號
軍艦及水雷艇類別等級別表中「操江」ヲ削除ス
明治三十六年十月二十六日
海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十一號
艦艇發着報告規則第二十二條ニ左ノ一項ヲ追加ス
明治三十六年十月二十六日
海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條中尉官ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ
 委員タル主計ハ主トシテ會計經理ノ事項ヲ管掌シ特ニ金櫃委員タル主計ハ出納官吏(物品會計
 同以下)ノ職務ヲ行フ
 第六條中第一號ヲ削リ第二號中「上等計手ヲ補助シテ第四號中給養掛下士ヲ乘馬隊ノ曹長ニ改ム
 第七條中前條第一號ノ出納官吏ノ取扱マヘキ現金左ノ如シ」ヲ左ノ現金ハ金櫃委員主計之ヲ取扱
 フハニ改ム
 第十八條第二項中「及出納官吏ヲ削ル」
 第二十四條第一項及第二項中「及出納官吏ヲ削ル」
 ○陸軍第九十九號
 陸軍給與令細則中左ノ邊改正ス
 明治三十六年十一月三十日
 陸軍大臣寺內正毅
 第六條中第四號ヲ左ノ如ク改メ第五號ヲ削ル
 四 在職樂長及准士官ハ之額ニ依ル
 第十八條中「功加俸ハ滿四年滿六箇年又ハ滿八箇年ヲ削ル」
 第十九條 本令第八條第六ノ技術加俸ハ准士官下士兵卒ヲ通シ其ノ技術ノ優劣ニ應シ一等乃至四
 等ノ額ヲ給ス
 前項加俸ノ等級ハ當該官術學校長若ハ隊長所管長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム
 第二十條第二項中「一等額外國ノ稱ニ精通スル者ヲ削リ」ニ等額ヲ「二等額」ニ改メ以下順次繰上ケ
 第二項中「准士官司令官ノ下制此ヲ」ハ「准士官司令官」ニ改ム
 第二十四條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ
 第二十四條ノ一 豫備役後備役下士ニシテ再々現役ニ就キ營內居住トナリタル者ノ退還賜金給與
 ハ前條ニ於ケル在職年數ヲ通算シ之ニ相當ノ金額ヨリ前支給額ヲ控除シ之ヲ得

第三十四條ノ三 下士補助費賞金ハ毎年五月及十一月ノ末日ニ於テ之ヲ給ス
 第四十一條第一項但書中「附料」下ニ「食料及代金交付」係ルモノヲ加フ
 第四十二條第一號ヲ左ノ如ク改ム
 一 休暇中歸省外泊外出ヲ許可セラレタル者但シ請願休暇中ノ者ハ除ク
 第四十九條中「六十分ノ三十七」ヲ「百分ノ六十二」ニ改メ「八」ヲ「十三」ニ改メ「五」ヲ「百
 分ノ八」ニ改ム
 第五十三條中「第四表」ヲ「下士兵卒被服」第六表ノ「ヲ」備附被服ニ各兵科下士兵卒ヲ各兵科下士
 兵卒下士兵卒ニ改メ「監督候補生」下ニ「主計候補生」ヲ加ヘ下士候補生ヲ削リ第七號ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ計手ヨリ採用シタル主計候補生ニ在リテハ經理學校ニ入校ノ月ヨリ退校ノ前月迄之ヲ該校ニ交付ス
 第五十四條第一號中「初年生」ヲ「入校第一年ノ者」ニ改メ「第五表」ヲ「生徒被服」ニ改メ「第二號中」二年生
 以上ヲ「入校第二年以上ノ者」ニ改メ「第五表」ヲ「生徒被服」ニ改メ「第二號中」二年生
 第五十五條中「第六表及第七表」ヲ「下士兵卒被服初年度額及備附被服」ニ改ム
 第五十六條中「鐵道大隊」ヲ削リ「第四表」ヲ「入學分選者ノ年額」ヲ「下士兵卒被服年額中入學分選者ノ額」
 ニ改ム
 第五十九條第二項中「附費品」ヨリ「ヲ」ニ於テ「ニ改ム」
 第六十二條中「同兵卒」ヲ「預備役後備役兵卒」第七表ハ「定額」ヲ「下士兵卒被服初年度額」ニ改ム
 第六十五條ニ左ノ一號ヲ加フ
 七 計手ニシテ主計候補生ヲ命ゼラレ經理學校ニ入校スルトキハ所持ノ被服一切ヲ携行セシメ
 經理學校ニ於テ其ノ制式ヲ改修スルモノトス
 第六十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第七十條 下士兵卒被服年額、下士兵卒被服初年度額、生徒被服定額及備附被服定額ハ別ニ之ヲ定ム
 第一表備考第一及第四ヲ左ノ如ク改ム
 一 士官候補生ノ被服ハ當該兵科ノ下士兵卒ニ監督候補生及主計候補生ノ被服ハ步兵兵科下士兵卒
 ニ見習士官見習候補士官見習職官ノ被服ハ衛生部下士ニ準シ且服制上所要ノ被服ヲ增加ス

○陸軍第百號

臺灣島及澎湖島駐衛陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月三十日

陸軍大臣寺內正毅

第三條第一項中「年功加俸」ハ第二表ニ「及第二項中「年功加俸」ヲ削ル

第五條中「年功加俸」ヲ削ル

第七條 本規則第六條ノ増給ハ休職、停職トナリタル者ハ其ノ命ヲ受タル當日限り之ヲ止メ請願ニ依リ休職中ノ者ニハ之ヲ給セス

第十四條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項中「第九表」ヲ「第八表」ニ改ム

守備隊下士以下各ヲ除ク及憲兵上等兵被服ノ携行補填及駐衛地備附定數ハ第八表ニ依リ歸還者ニハ所持被服中同表携行數ト同數ノ被服ヲ携持歸還セシム

前項補填被服及歸還者ノ携持品ハ原隊ノ委任經理ニ屬ス

第十五條削除

第十六條第一項中「第十一表」ヲ「第九表」ニ改メ第二項中「衛戍病院」ノ下ニ「及臺灣陸軍補給廠」ヲ加ヘ

「第十二表」ヲ「第九表」ニ改ム

第十七條中「時服」ヲ「著裝」セシメ「及改修或ハ換給」ヲ削リ「第九表」ヲ「第八表」ニ改ム

第十九條中「第十三表」ヲ「第九表」ニ改ム

第二十三條ノ前附則ヲ削ル

第二十九條削除

第三十二條削除

明治三十六年十一月 陸軍省陸軍第百號

第十六條中「出發」ヲ「駐衛地到着」ニ歸著ヲ「駐衛地出發」ニ改メ「増給」ノ下ニ「駐衛隊附トナリタル者」ニハ「加フ」

第十七條第一項中「第一表及」ヲ削リ「交付」ヲ「貸與」ニ改メ第二項中「看病人」ニ在リテハ「同條下士以下ノ例」ニ準シ共ノ他ノ「例」ニ準シ「交付」ヲ「貸與」ニ改ム

第一表及第二表ヲ別表ノ如ク改ム

第三表中「摘要」ヲ「區分」ニ改メ「同手」ヲ「次」ニ左ノ「縦班」ヲ加フ

看病人	看病人	
	冬	夏
一組	每年五月ニ於テ交付ス(五月份)	但シ初年ハ二組ヲ交付ス
一組	每年十一月ニ於テ交付ス(十一月)	但シ初年ハ二組ヲ交付ス

第三表ノ次ニ別表第四表ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

(別表)

第一表

品目	區分	携行數	平時所持品	新品	補填數	駐衛地交付數
第一種帽	憲兵下士兵卒	—	—	—	—	—
第二種帽	下士兵卒(憲兵科ヲ除ク)	—	—	—	—	—
外衣	下士兵卒	—	—	—	—	—

品目	區分	携行數	平時所持品	新品	補填數	駐衛地交付數
雨	憲兵下士兵卒	—	—	—	—	—
靴	下士兵卒	—	—	—	—	—
看病人	下士兵卒	—	—	—	—	—
手	乘馬下士兵卒	—	—	—	—	—
短	徒歩下士兵卒(騎兵科ヲ除ク)	—	—	—	—	—
工兵	工兵下士兵卒	—	—	—	—	—
中	憲兵下士兵卒(騎兵科ヲ除ク)	—	—	—	—	—
長	騎兵下士兵卒	—	—	—	—	—
脚	徒歩下士兵卒(憲兵科ヲ除ク)	—	—	—	—	—
靴	下士兵卒	—	—	—	—	—
拍	騎馬下士兵卒	—	—	—	—	—
第一種背蓋	歩兵下士兵卒	—	—	—	—	—
第二種背蓋	工兵下士兵卒	—	—	—	—	—
第三種背蓋	砲兵下士兵卒、騎工兵、射工兵、砲工兵、砲隊長、砲隊副長	—	—	—	—	—
被服手入具	下士兵卒	—	—	—	—	—

- 備考
- 一 病室ヲ設置シタルトキハ本表並ニ定數中ヨリ分割シテ供用スヘシ
 - 二 當分ノ内從來備付ノ白木綿製蒲團ヲ撤用スヘシ此ノ場合ニ於テハ本表ノ厚毛布ヲ一枚トス
 - 三 本表數額ハ一人限リモノヲ以テ算スニ人際以上ノモノヲ用フルトキハ之ニ應ジテ當數ヲ減スヘシ

第四表

階級	分	
	上	下
將官	四拾	四拾
高等官	三拾	三拾
中級官	二拾	二拾
下級官	一拾	一拾
准士官	五	五
准士	五	五

一食ニ付鞋履手當ヲ減スヘキ金額

○陸軍部第二號

戰用品取扱規則左ノ通定ス

明治三十一年陸軍第六十八號戰用品取扱規則ヲ廢止ス

明治三十六年十一月三十日

陸軍大臣寺內正毅

戰用品取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ニ於テ戰用品ト稱スルハ陸軍兵備品會計規則第二條ニ掲グル糧秣被服裁縫具炊具天幕馬匹手入具及陣中事務用品ヲ謂フ

第二條 本規則ニ於テ戰用準備品ト稱スルハ平時ヨリ準備貯藏スヘキ戰用品ヲ謂フ

第三條 戰用品ノ會計年度ハ勤員年度ノ區分ニ依ル

第二章 管理

第四條 戰用品ノ管理ハ左ノ區分ニ依ルモノトス

一 師團長ノ主管ニ係ル戰用品計畫ニ要スルモノ及師團ニ於テ貯藏ヲ擔任スルモノハ當該師團長

二 陸軍糧秣廠及陸軍被服廠ニ貯藏スルモノハ陸軍省經理局長

第五條 管理者ハ戰用品ノ出納命令ヲ發スヘシ但シ師團長ハ其ノ部下ニ經理局長ハ陸軍糧秣廠長

陸軍被服廠長ニ分任スルコトヲ得

第六條 管理者ハ戰用品ノ整備及保全ヲ圖リ並保管出納ノ擔任者ヲ定メ其ノ行務ヲ規定スヘシ

第七條 戰用品中損敗ニ屬スルモノハ管理者ニ於テ適宜處分スルコトヲ得

編制改正等ニ因リ戰用品ノ準備數ニ増減ヲ來シタルトキハ彼是專用シ全ク不用ニ歸シタルモノ

ハ將來ノ所要ヲ顧慮シ適宜處分スルコトヲ得

戰用品ニシテ災害ニ罹リ滅失毀損シ又ハ前二項ニ依リ處分シタル爲勤員計畫上重要ノ關係ヲ及

ホストキハ速ニ之ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第三章 整備

第八條 各部隊所要ノ戰用準備品ハ勤員計畫上貯藏擔任部隊ノ長共ノ整備ノ責ニ任シ準備ノ爲特

ニ交付スル現品若ハ經費又ハ委任經理ノ餘裕ヲ以テ漸次其ノ充實ヲ圖ルヘシ

第九條 師團長ニ於テ貯藏擔任ヲ定ムヘキ戰用品ニツキテハ勤員ノ實施ト各部隊ニ於ケル負擔ノ

均衛トテ願慮シテ其ノ擔任ヲ定メ若シ衛戍地ノ關係上貯藏擔任ニ均衛ヲ得セシムル能ハサル場
合ニ在リテハ特ニ準備擔任ヲ定メ各部隊ノ負擔ニ輕重ナカラシムルヲ要ス

第十條 戰用品中左ノ品種ハ陸軍糧秣廠及陸軍被服廠ニ於テ調辨シ其ノ他ノ品種ハ各部隊ニ於テ
調辨スルモノトス

糧秣中 糲重糲麵麵粉肉、食鹽醬油エヤス梅干
被服中 各種織風毛布各種厚薄厚細木綿厚細麻布軍靴飯盒水筒擔帶天幕

第四章 新陳交換

第十一條 戰用品ノ新陳交換ハ其ノ貯藏部隊ノ通常兵備品ヲ以テスルモノトス但シ常該部隊ニ於
テ更新ノ途ナキモノ及他隊ニ比シ更新年限ニ大差アルモノハ師團長各部隊ヲ通シ交換ノ方法ヲ
定ムル

第十二條 戰用品中通常兵備品ヲ以テ全ク新陳交換ノ途ナキモノハ努メテ其ノ保全ヲ圖リ實際戰
用ニ堪ヘサルニ至リ常該師團又ハ部隊ノ經費ヲ以テ之カ更新ヲ圖ルモノトス

第十三條 戰用品ノ新陳交換ヲ確實ナラシムル爲現品又ハ其ノ容器ニ製作年次、大小、號數等ヲ標
記シ置ク

第十四條 陸軍糧秣廠及陸軍被服廠ニ貯藏ノ戰用品ハ各師團ニ配當シ更新セシム

前項戰用品ノ製作年次師團ノ貯藏品ヨリ古キトキハ直ニ之ヲ通常兵備品ニ充ツルモノトス

第十五條 戰用品ノ新陳交換ハ概ネ附表第一ノ期限ニ依ルモノトス但シ第十條ノ品種ニ在リテ
ハ其ノ交換スヘキ品種數量^{第十四條ノ配當トモ}毎一年一月中陸軍大臣ヨリ各管理者ニ合達ス
經理局長ハ前項合達ヲ受ケタルトキハ各師團ニ送付スヘキ品種數量ノ支出ヲ陸軍被服廠長ニ命

令スル

第十六條 師團長ハ前條ノ合達ヲ受ケタルトキハ經理部長ヲシテ其ノ品種數量ヲ各隊ニ配當セシ
ムル

經理部長ハ前項ニ依リ配當シタル部隊、品目、數量ヲ二月中ニ陸軍糧秣廠ニ通報シ現品ノ送付ヲ
請求スル

第十七條 陸軍糧秣廠長ハ第十五條第二項ノ命令ニ基キ前條ノ請求ニ應シ四月中ニ現品ヲ發送ス

第十八條 陸軍被服廠ニ貯藏ノ戰用品ニシテ第十四條ニ依リ各師團ニ配當スル品種及數量ハ通常
毎年十一月中陸軍大臣ヨリ各管理者ニ合達ス

經理局長ハ前項ノ合達ヲ受ケタルトキハ各師團ニ送付スヘキ品種數量ノ支出ヲ陸軍被服廠長ニ命
令スル

第十九條 師團長ハ前條ノ合達ヲ受ケタルトキハ經理部長ヲシテ其ノ品種數量ヲ各隊ニ配當セシ
ムル

各隊ハ前項ノ配當數ヲ翌年度所要被服現品中ニ算入シ軍隊經理規程ニ依リ請求ノ手續ヲ爲スヘ

第二十條 陸軍被服廠長ハ第十八條第三項ノ命令ニ基キ前條ノ請求ニ應シ現品ヲ發送スル

第五章 保管出納

第二十一條 戰用品ノ保管出納擔任者ハ其ノ保管スル戰用品ノ保全及出納ニ就キ一切ノ責任ヲ
第三十二條 戰用品ハ管理者又ハ其ノ分任者ノ命令アルニ非サレハ之ヲ出納スルコトヲ得ス

第二十三條 各部隊ニ於テ戰用品ヲ分割貯藏スルトキハ當該部隊長ニ於テ適宜監守者ヲ定ムヘシ
前項監守者ハ監守ノ戰用品ニ就キ保管ノ責ニ任ス

第二十四條 戰用品損敗ニ屬スルカ又ハ災害ニ罹リ滅失毀損シタル場合ニ於テハ保管出納擔任者
ハ所屬部隊長ヲ經テ速ニ之ヲ當該管理者ニ報告スヘシ
監守者ノ監守スル戰用品ニシテ前項ノ場合ニ在リテハ速ニ之ヲ保管出納擔任者ニ通報スルモノ
トス

第二十五條 戰用品出納簿ハ陸軍簿表規程被服品受拂簿ノ様式ニ依ルヘシ

第六章 検査

第二十六條 戰用品ノ検査ハ主トシテ左記各號ノ事項ヲ検査スルモノトス
一 戰用品準備ノ順序及程度適當ナルヤ

二 材料及製作方戰用品ニ適スルヤ

三 新規交換ハ正確ニ實行シアルヤ

四 貯藏及保全ノ方法適當ナルヤ

五 被服ノ大小號數等ノ割合適當ナルヤ

六 保管出納正確ナルヤ

第二十七條 戰用品ノ検査ヲ分テ左ノ二種トス
一 定期検査

二 臨時検査

第二十八條 定期検査ハ管理者ニ於テ毎年一回之ヲ執行シ又ハ特ニ検査官ヲ命レ之ヲ執行セシム

ルモノトス

第二十九條 臨時検査ハ陸軍大臣臨時検査官ヲ命シ全國又ハ其ノ一部ニ就テ施行セシムルモノトス

第三十條 定期及臨時ノ検査終レハ其ノ成績ニ意見ヲ附シ管理者又ハ臨時検査官ヨリ陸軍大臣
ニ報告スヘシ

前項報告ニハ附表第二號及第三號ノ調書ヲ添付スヘシ

第三十一條 定期検査官検査ヲ終リタルトキハ戰用品出納簿ノ末尾ニ検査済ヲ證明シ署名捺印シ
テ保管出納擔任者ノ責任ヲ解除スヘシ

検査ノ結果責任ヲ問フ必要アリト認メタルトキハ其ノ處分權ヲ有スル場合ニハ自ラ之ヲ處分シ
處分權ナキ場合ニハ其ノ處分權ヲ有スル者ニ之ヲ申告スヘシ

第三十二條 臺灣ニ於ケル戰用品ハ臺灣總督之ヲ管理シ其ノ取扱ハ本規則ニ準據スヘシ
(附表第一號)

戰用品交換期限表

品目	交換期限	品目	交換期限
精米	二箇月	肉	三箇月
玄米	一箇年	鹽	八箇月
大豆	六箇月	食糧	四箇年
精糖	八箇年	油	二箇年
重燒鹽	一箇年	キス	二箇年

(附表第二號) 用紙美濃紙

何種圖紙用被服(何々)製作年次區分調査

品目	現在	製作年次區分				
		何年	何年	何年	何年	何年

備考 一、被服以外ノ服用品ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス

(附表第三號) 用紙美濃紙

明治何年度何種圖紙用被服(何々)新陳交換數調査

品目	交換受入數		交換拂出數	
	何年製	何年製	何年製	何年製

備考 一、被服以外ノ服用品ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス

○海軍省達第百十二號

横須賀海軍造船廠ニ於テ製造ノ第三號二等巡洋艦ヲ音羽ト命名セラル

明治三十六年十一月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十三號

軍艦音羽へ信號符字左ノ通點付ス

明治三十六年十一月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q N M 音羽

○海軍省達第百十四號

軍艦及水雷艦類別等級別表ニ巡洋艦三等ノ欄内ニ音羽ヲ加フ

明治三十六年十一月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十五號

海軍監獄書記同看守長同看守配置表左ノ通改メ明治三十六年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年十一月六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍監獄書記同看守長同看守配置表

	監獄書記	監獄看守長	監獄看守
横須賀海軍監獄	一	四	十三
吳海軍監獄	一	三	十二
佐世保海軍監獄	一	三	十二
舞鶴海軍監獄	一	三	十一

○海軍省達第百十六號

海軍省職務規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「課長」ヲ削ル

第三條 局長ハ一時ノ病氣事故不在等ニ際シテハ局員ニ命シテ便宜業務ヲ處辨セシムルコトヲ得

第五條 削除

第七條 中 屬ノ下ニ編修書記ヲ加フ

第十四條 軍務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 艦隊軍艦其ノ他諸官衙學校等ノ建制及其ノ勤務ニ關スルコト
- 二 軍艦水雷艇運送船通信船工作船及病院船ノ木籍及所屬ヲ定ムルコト
- 三 艦隊軍艦ノ編制進退役務ニ關スルコト
- 四 艦隊軍艦其ノ他諸官衙學校等ノ定員制定ニ關スルコト
- 五 要塞地帶法及軍港要港規則等ニ關スルコト
- 六 軍紀風紀ニ關スルコト
- 七 戒嚴及徵發ニ關スルコト
- 八 備式禮式ニ關スルコト
- 九 服制服裝ニ關スルコト
- 十 旗章及賞牌徽章等ニ關スルコト
- 十一 演習及檢閱ニ關スルコト
- 十二 運輸及通信ニ關スルコト
- 十三 海上保安ニ關スルコト
- 十四 沿海各地ニ於ケル海軍部外ノ土木工事ニ關スルコト
- 十五 外國駐在將校及同機關官ニ關スルコト
- 十六 望樓ニ關スルコト

- 十七 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 十八 海軍教育本部ニ關スルコト
- 十九 海軍艦政本部ニ關スルコト
- 二十 水路部ニ關スルコト

第十五條 削除

第十六條 人事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 准士官以上及文官ノ進退任免補職合課増俸分限其ノ他ノ人事ニ關スルコト
- 二 准士官以上ノ名簿停年名簿及履歷簿ニ關スルコト
- 三 武官ノ考課表及勤務報告ニ關スルコト
- 四 進級會議ニ關スルコト
- 五 准士官以上ノ補充ニ關スルコト
- 六 文官ノ名簿及履歷簿ニ關スルコト
- 七 文官ノ考課表ニ關スルコト
- 八 准士官以上ノ人事ニ關スル上奏書親裁書辭令書褒狀ノ取扱及辭令通報ニ關スルコト
- 九 文官ノ人事ニ關スル上奏書辭令書褒狀ノ取扱及辭令通報ニ關スルコト
- 十 人事ニ關スル差使ニ服スルコト
- 十一 海軍豫備員ニ關スルコト
- 十二 下士卒ノ任用進級其ノ他ノ人事ニ關スルコト
- 十三 兵員ノ徵募補充及服務ニ關スルコト

- 十四 召集及簡閱點呼ニ關スルコト
 - 十五 軍人軍屬ノ恩給遺族扶助給助退官賜金ニ關スルコト
 - 十六 軍人軍屬及内國人ノ敘位、敘勳、記章、褒章及賞與ニ關スルコト
 - 十七 拜謁參賀參拜拜觀御陪食御陪宴及之ニ等シキ儀式祭典ニ關スルコト
 - 十八 雇員傭人ニ關スルコト
 - 十九 海軍雇傭ノ外國人ノ人事ニ關スルコト
 - 二十 屬托者ニ關スルコト
 - 二十一 外國旅行券ニ關スルコト
 - 二十二 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十七條削除
- 第十八條 醫務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 軍醫官及藥劑官ノ勤務ニ關スルコト
 - 二 軍醫官及藥劑官以下ノ教育ニ關スルコト
 - 三 外國駐在軍醫官及同藥劑官ニ關スルコト
 - 四 軍人ノ體格ニ關スルコト
 - 五 恩給ニ係ル診斷及傷痕疾病ニ因ル免官免役ノ診斷ニ關スルコト
 - 六 傳染病豫防ニ關スルコト
 - 七 艦船、建築物、被服糧食、給水排水等ノ衛生ニ關スルコト
 - 八 内外國諸港ノ風土及地方病流行病ニ關スルコト

- 九 海軍病院ニ關スルコト
 - 十 海軍軍醫學校ニ關スルコト
 - 十一 治療品ニ關スルコト
 - 十二 患者費ニ關スルコト
 - 十三 醫務衛生ノ調査及統計ニ關スルコト
 - 十四 前諸號ノ外總テ醫務衛生ニ關スルコト
 - 十五 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十九條削除
- 第二十條 逕理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 豫算決算豫備金支出、定額繰越、過年度支出及定額戻入ニ關スルコト
 - 二 特別會計ニ關スルコト
 - 三 收入支出及帳簿報告ニ關スルコト
 - 四 本省及歳入徵收官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル收入ノコト
 - 五 本省及委任仕拂命令官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル經費仕拂ノコト
 - 六 出納官吏ノ身元保證金ニ關スルコト
 - 七 金錢給與ニ關スルコト
 - 八 被服物品及糧食品ノ經理ニ關スルコト
 - 九 通常物品ニ關スルコト
 - 十 物品ノ賣買貸借ニ關スルコト

- 十一 官有財産ノ管理及取扱ニ關スルコト
- 十二 建築工事ノ計畫及施行ニ關スルコト
- 十三 東京所在各廳ノ建築工事ノ實施ニ關スルコト
- 十四 本省及本省ト同構内ニ在ル各廳ノ用度及運輸通信取扱ニ關スルコト
- 十五 船舶車馬備入ニ關スルコト
- 十六 金錢物品ノ會計監査ニ關スルコト
- 十七 主計官ノ勤務ニ關スルコト
- 十八 主計官以下ノ教育ニ關スルコト
- 十九 外國駐在主計官ニ關スルコト
- 二十 海軍主計官練習所ニ關スルコト
- 二十一 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二十一條及第二十二條削除
- 第二十九條中「課長」ヲ「局長」ニ改メ第三項ヲ削除ス
- 第三十條中「課長及課員若ハ」ヲ削ル
- 第三十一條中「課長等」及「主務課長」ヲ「局長」ニ改メ別表ヲ左ノ如ク改ム

(別表)

總務局	四	録	事務修書配	技	手
			二		

軍務局	四				
人事局	六				
醫務局	三				
經理局	二十八				三
司法局		二			

○海軍省達第百十七號

海軍技術會議規則ヲ廢ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十八號

海軍需品庫處務規程ヲ廢ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十九號

海軍總政本部處務規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條中「軍務局」ノ下ニ「經理局」ヲ加フ

第三條中「及判任官」ヲ以下ニ改ム

第六條ノ二 海軍大臣ニ提出スヘキ公文ハ海軍省所定ノ野紙ヲ用ヒ關係諸官欄外ニ捺印シ又ハ供

覽ノ印ヲ捺シ海軍省軍務局ニ送附スヘシ

第七條削除

第八條第六號中及其ノ契約ヲノ契約案ニ改メ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 六ノ二 兵器及屬具ノ造修價格調査ニ關スルコト
 同條第十號ヲ左ノ如ク改ム
 十 部外工場ニ委託セル兵器及屬具ノ工事監督並其ノ造兵監督官造兵監督助手ニ關スルコト
 同條第十二號第十三號中兵器廠ヲ造兵工場ニ改ム
 第九條第四號中及其ノ契約ヲノ契約案ニ改メ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 四ノ二 需品ノ造修價格調査ニ關スルコト
 第十條第三號中及其ノ契約ヲノ契約案ニ改メ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 三ノ二 艦船ノ造修價格調査ニ關スルコト
 同條第九號ヲ左ノ如ク改ム
 九 部外工場ニ委託セル船體及屬具ノ工事監督並其ノ造船監督官造船監督助手ニ關スルコト
 同條第十號ヲ削除ス
 同條第十二號及第十三號中造船廠ヲ削除ス
 第十一條第三號中及其ノ契約ヲノ契約案ニ改メ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 三ノ二 機關ノ造修價格調査ニ關スルコト
 同條第十一號ヲ左ノ如ク改ム
 十一 部外工場ニ委託セル機關及屬具ノ工事監督並其ノ造船監督官造船監督助手ニ關スルコト
 同條第十三號第十四號中造船廠ヲ削除ス
 第十一條ノ二 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 歳入歳出ノ豫算決算及收入支出ニ關スルコト
 二 各工廠ノ會計狀況及材料庫現狀ノ調査ニ關スルコト
 三 物件ノ造修價格ニ關スルコト
 四 職工ノ賃錢ニ關スル規程及事業費ノ整理ニ關スルコト
 五 艦船ノ財産簿ニ關スルコト
 六 物件ノ注文購買及其ノ契約案ノ調査並契約ノ締結ニ關スルコト
 七 造船造兵監督會計官及監督書記ニ關スルコト
 八 公文書類ノ接受發送ニ關スルコト
 九 各部ノ主務ニ屬セサル公文書類ノ保存及公文書類ノ淨書ニ關スルコト
 十 人事ニ關スルコト
 十一 木部長官印ノ管守ニ關スルコト
 十二 機密文書ノ保管ニ關スルコト
 十三 機密圖書ノ管理ニ關スルコト
 十四 前諸號ノ外各部ノ所掌ニ屬セサルコト
 文書取扱以下削除
 ○海軍省第百二十號
 海軍教育本部處務規程中左ノ通改正ス
 明治三十六年十一月十日
 海軍大臣男爵山本權兵衛
 第七條 海軍大臣ニ提出スヘキ公文ハ海軍省所定ノ罫紙ヲ用ヒ關係諸官欄外ニ捺印シ又ハ供覽ノ
 明治三十六年十一月 海軍省第百二十號

印ヲ捺シ海軍省軍務局ニ送附スヘシ

第二章 事務分課

- 第八條 第一部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 將校少尉候補生、將校生徒、准士官、下士卒以下ヲ除ク等機關兵曹ノ教育訓練ニ關スルコト
 - 二 前號ノ教育ニ係ル操典、教範類ノ制定及改正ニ關スルコト
 - 三 第一號ニ係ル教育資料及教育年報類ノ編纂ニ關スルコト
 - 四 第一號ニ係ル外國軍事教育ノ調査ニ關スルコト
 - 五 第一號ニ係ル教育諮問會ニ關スルコト
 - 六 大學校、兵學校、砲術練習所及水雷術練習所ニ關スルコト
 - 七 海軍各部教育ノ進一ニ關スルコト
 - 八 人事及機密文書ニ關スルコト
 - 九 教育ニ關スル圖書ノ購入、出版、供給ニ關スルコト
- 第九條 第二部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機關官以下ノ教育訓練ニ關スルコト
 - 二 前號ノ教育ニ係ル操典、教範類ノ制定及改正ニ關スルコト
 - 三 第一號ニ係ル教育資料及教育年報類ノ編纂ニ關スルコト
 - 四 第一號ニ係ル外國軍事教育ノ調査ニ關スルコト
 - 五 第一號ニ係ル教育諮問會ニ關スルコト
 - 六 機關學校及機關術練習所ニ關スルコト

第三章 文書取扱以下削除

○海軍省第百二十一號

水路部處務規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣 野村 浩平

第十條ノ二 海軍大臣ニ提出スヘキモノハ案ヲ具シ又ハ供覽ノ印ヲ捺シ關係諸官捺印ノ上海軍省

軍務局ニ送附スヘシ

第十四條中「印刷掛及庶務掛ヲ」及印刷掛ニ改メ

第二十條削除

第二十四條第七號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

八 公文書類ノ接受發送ニ關スルコト

九 各科ノ主務ニ屬セサル事務ニ關スルコト

文書取扱以下削除

○海軍省第百二十二號

海軍工廠處務細則左ノ通定ム

明治三十六年十一月十日

海軍大臣 野村 浩平

海軍工廠處務細則

- 第一條 検査官ハ廠長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 船體機關、兵器及其ノ屬具並帶品ノ修理、改造、新設、引換ノ要否ヲ檢スルコト
 - 二 船體機關、兵器及其ノ屬具並帶品ノ検査ニ關スルコト

- 三 船機、機關、兵器ニ要スル材料、物品ノ試験、検査ニ關スルコト
 - 四 船體、機關、兵器ノ計畫、方案ノ調査ニ關スルコト
 - 五 公文書類ノ接受、發送及各部庫ニ屬セサル事務ニ關スルコト
 - 六 守衛便丁、定夫、給仕等ノ使役及監督ニ關スルコト
- 第二條 造兵部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 兵器及其ノ屬具ノ製造圖、製造方法書、製造說明書並其ノ工事ニ關スル入費概算等ノ調製ニ關スルコト
 - 二 兵器及其ノ屬具ノ設計、構造、製造、改造、修理、裝備、試驗ニ關スルコト
 - 三 内國私立工場ニ委託セル兵器及其ノ屬具ノ工事監督ニ關スルコト
 - 四 兵器及其ノ屬具ノ接受及其ノ整理ニ關スルコト
 - 五 所屬工場ノ造修工事ニ關スルコト
 - 六 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ整備ニ關スルコト
 - 七 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ保存期限及入費概算ニ關スルコト
 - 八 進水式銃、ルマテ、米成、磁、裝備、レアル兵器ヲ保管スルコト
- 第三條 武庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 兵器及其ノ屬具ノ整備、出納、保管、配備ニ關スルコト
 - 二 各部ニ於テ消費セル兵器ノ調査ニ關スルコト
 - 三 兵器ノ保管運搬ニ關スル人夫、舟車馬ノ使役ニ關スルコト

- 四 其ノ擔任ニ屬スル器具、機械等ノ整備、保存期限及入費概算ニ關スルコト
- 第四條 吳海軍工廠製鋼部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 鑄鋼、鍛鍊、壓碎、燒鈍ノ事業及其ノ入費概算等ノ調製ニ關スルコト
 - 二 成品ノ接受及其ノ整理ニ關スルコト
 - 三 所屬工場ノ造修工事ニ關スルコト
 - 四 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ整備ニ關スルコト
 - 五 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ保存期限及入費概算ニ關スルコト
- 第五條 需品庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 需品ノ準備、配備、供給、出納ニ關スルコト
 - 二 需品ノ保管運搬ニ關スルコト
 - 三 需品ノ品種、數量、貯藏ノ調査ニ關スルコト
 - 四 繼續其ノ他各部ニ供給セラル需品ノ整備、保存ノ調査ニ關スルコト
 - 五 繼續其ノ他各部ニ於テ消費セラル需品ノ調査ニ關スルコト
 - 六 需品ノ保管運搬ニ要スル人夫、舟車馬ノ使役ニ關スルコト
 - 七 所屬需品支庫ノ管理ニ關スルコト
- 第六條 需品支庫在勤ノ書記ハ所屬需品庫主管ノ命ヲ承ケ石炭其ノ他ノ需品ノ出納保管ニ關スルコトヲ掌ル
- 第七條 造船部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 船體及其ノ屬具ノ製造、改造、修理、試驗ニ關スルコト

- 二 船體及其ノ屬具ノ計畫方策並其ノ製造ニ要スル入費概算書ノ調製ニ關スルコト
 - 三 船體及其ノ屬具ノ改造修理等ニ要スル入費概算書ノ調製ニ關スルコト
 - 四 内國私立工場ニ委託セル船體及其ノ屬具ノ工事監督ニ關スルコト
 - 五 所屬工場船渠船臺船臺及其ノ機械物品等ノ整備ニ關スルコト
 - 六 所屬工場船渠船臺試驗標柱ノ新設改築ニ係ル一般計畫ニ關スルコト
 - 七 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ入費概算及保存期限ニ關スルコト
 - 八 進水前ノ未成艦船ノ船體ノ保管ニ關スルコト
- 第八條 造船部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 機關及其ノ屬具ノ製造改造修理試驗ニ關スルコト
 - 二 機關及其ノ屬具ノ計畫方策並其ノ製造ニ要スル入費概算書ノ調製ニ關スルコト
 - 三 機關及其ノ屬具ノ修理改造等ニ要スル入費概算書ノ調製ニ關スルコト
 - 四 内國私立工場ニ委託セル機關及其ノ屬具ノ工事監督ニ關スルコト
 - 五 所屬工場及其ノ機械物品等ノ整備ニ關スルコト
 - 六 所屬工場ノ新築改築ニ係ル一般計畫ニ關スルコト
 - 七 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ入費概算及保存期限ニ關スルコト
 - 八 進水前ノ未成艦船ニ裝備セル機關ノ保管ニ關スルコト
- 第九條 會計部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 計算課
- 一 造船材料資金ノ豫算決算及其ノ他ノ會計事務ニ關スルコト

- 二 造船材料資金ニ屬スル收入及仕拂ニ關スルコト
 - 三 物件ノ造修費其ノ他生産ニ關スル價格調査ニ關スルコト
 - 四 艦船兵器及其ノ屬具製造用物件造船材料並經營用品ノ購買賣却其ノ他運搬ノ契約ニ關スルコト
 - 五 内國私立工場ニ委託セル艦船兵器及其ノ屬具ノ造修契約並之カ仕拂ニ關スルコト
 - 六 受託艦船兵器及其ノ屬具ノ製造修理費ノ徴收ニ關スルコト
 - 七 職工維持ノ現況調査ニ關スルコト
 - 八 職工ノ給與艦船兵器ノ造修及其ノ他ニ要スル材料職工敷實費並工事現況等ノ報告統計ノ調製ニ關スルコト
 - 九 事業費ニ要スル人夫舟車馬ノ備役ニ關スルコト
 - 十 前記ノ外所屬各庫ノ所掌ニ屬セサル者
- 材料庫
- 一 造船材料ノ貯藏保管出納ニ關スルコト
 - 二 造船材料ノ貯藏現況不用品處分ノ調査ニ關スルコト
- 工場庫
- 一 工所用トシテ材料庫ヨリ受入レタル材料ノ保管出納ニ關スルコト
 - 二 工場ニ交付セル材料物品ノ整理監督ニ關スルコト
 - 三 工場備付ノ器具機械及其ノ他ノ物件ノ保管監督ニ關スルコト
 - 四 艦船取外物品廢兵器其ノ他工業上生シタル廢材廢屑物等ノ保管出納ニ關スルコト

○海軍省令第二百二十三號

海軍造兵廠處務細則中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

- 第二條 廠長ハ部下兵曹長並判任官ヲ所屬部庫等ニ分屬セシムヘシ
- 第二條 各部長ハ部下諸員ヲ各掛ニ配置スヘシ
- 第四條中製造科ヲ製造部ニ改ム
- 第八條削除

第九條

検査官ヲ検査掛武庫掛及庶務掛ニ分ツ

第十條

検査掛ハ兵器及其ノ屬具ノ試験検査ヲ掌リ又其ノ保存方法保存期限ノ調査並射擲表等ノ編製ニ關スル事ヲ掌ル

第十二條中

科課庫ヲ部庫ニ改ム

第十三條中

會計課ヲ會計部ニ改ム

第十五條中

會計課及造兵材料ヲ削ス

第十七條中

掌リ又使下給仕等ヲ監督スヲ掌ルニ改ム

第十八條

材料庫主管ハ造兵材料ノ準備保管出納並之ニ關スル帳簿ノ整理出納計算書ノ編製ニ關スル事ヲ掌ル

第十九條以下

削除

○海軍省令第二百二十四號

鎮守府處務規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第八條削除

第十五條中各部長ヲ削ス

第十九條中幕僚ヲ參謀及副官ニ改ム

第二十二條削除

第二十三條 機關長ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト
- 二 機關官ノ管理ニ關スル船體機關兵器ニ關スルコト
- 三 機關官以下ノ教育訓練ニ關スルコト
- 四 艦艇機關動作ノ統計ニ關スルコト
- 五 出師準備中機關部ニ關スル事項ニ關スルコト

第二十四條

軍醫長ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 軍醫官及藥劑官以下ノ勤務ニ關スルコト
- 二 軍醫官及藥劑官以下ノ教育訓練ニ關スルコト
- 三 軍人ノ體格ニ關スルコト
- 四 恩給ニ係ル診斷及傷痍疾病ニ因ル免官免役診斷ニ關スルコト
- 五 傳染病豫防ニ關スルコト
- 六 艦艇建築物被服糧食給水排水ノ衛生ニ關スルコト
- 七 海軍病院ニ關スルコト

八 出師準備中患著治療ニ關スルコト

第二十五條 主計長ハ主トシテ會計經理ニ關スル諸報告ノ調査及被服糧食ノ出師準備ニ關スルコトヲ掌ル

第二十六條乃至第三十三條削除

第三十四條中司法部ニ於テ「主理」ニ改ム

第三十五條以下削除

○海軍省違第百二十五號

海軍經理部處務規程左ノ通定ム

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍經理部處務規程

第一條 海軍經理部ハ常ニ海軍省經理局ト氣脈ヲ通スヘシ

第二條 海軍經理部長ハ會計上ニ就キ必要アルトキハ所轄長若ハ主任官吏ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 海軍經理部長ハ検査ノ事實ニ依リ正當ナラズト認メタル事項ニ付テハ主任官吏ニ推問シ辨明又ハ更訂セシムルコトヲ得

第四條 海軍經理部長ハ出納官吏ニ於テ計算書及證據書類ノ提出ヲ怠リタルモノアルトキハ所轄長若ハ主任官吏ニ通告シ期限ヲ定メテ提出セシムルコトヲ得

第五條 海軍經理部長ハ金糧物件帳簿ノ検査ヲ行フトキハ豫メ其ノ期日ヲ當該主任官吏ノ屬スル長官ニ通知スヘシ但シ不期検査ヲ必要ト認ムルトキハ此ノ通知ヲ爲スト同時ニ検査ヲ開始スル

コトヲ得

第六條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 所管歳入歳出ノ豫算決算ニ關スルコト

二 所管歳入歳出ノ特別會計ニ關スル收支ニ關スルコト

三 俸給諸給諸手當扶助金旅費其ノ他金錢給與ニ關スルコト

四 出納官吏ノ身元保證金ニ關スルコト

五 金錢會計ノ規定及監査ニ關スルコト

六 金糧及帳簿ノ検査ニ關スルコト

七 銀守府所屬ノ艦船官衙ニ於ケル主計官以下ノ教育訓練ニ關スルコト

八 他ノ課科ノ所掌ニ屬セサル事項ニ關スルコト

第七條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 造船兵建築材料物件ニアラサル通常物品特ニ委任仕佛命令官ヲ除キタノ購買供給及賣却ニ關スルコト

二 運輸取扱通信取扱及他ノ所掌ニ屬セサル船舶車馬人夫ノ備入ニ關スルコト

三 工事請負及物件ノ賣買貸借運搬裁縫等各般ノ契約書ノ調査ニ關スルコト

四 物品會計ノ規定及監査ニ關スルコト

五 物品及帳簿ノ検査ニ關スルコト

第八條 衣糧料ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 被服物品糧食品ノ調辦配備出納保管供給準備及運搬ニ關スルコト

二 被服物品糧食品ノ保管運搬ニ關スル人夫舟車ノ備役ニ關スルコト
第九條 建築科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 管區内ノ官有財産ノ管理及取扱ニ關スルコト但シ横須賀鎮守府ニ在テハ海軍省經理局ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク

二 管區内ノ建築及土木工事ノ計畫及施行ニ關スルコト但シ横須賀鎮守府ニ在テハ海軍省經理局ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク

三 直營工事ニ屬スル工費ノ整理及職工人夫舟車ノ備役ニ關スルコト

四 建築材料物件ノ購買保管出納ニ關スルコト

五 軍港内浚渫ノ計畫ニ關スルコト

六 海軍所屬ノ浚渫船ヲ以テ直營セザル管區内ノ浚渫施行ニ關スルコト

○海軍省通第百二十六號
海軍各屬處務規則左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十日 海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍各屬處務規則

第一條 本則ハ海軍各屬處務ノ要領ヲ示スモノトス

但シ別ニ規定アルモノハ各共ノ規定ニ從フヘシ

第二條 本則ニ於テ屬ト稱スルハ法律若ハ勅令ヲ以テ各別ニ設置セラレタル海軍各部ヲ謂フ但シ海軍省各局及軍艦ハ屬ト準ス

第三條 本則ニ於テ長官ト稱スルハ海軍軍令部長、各鎮守府司令長官、艦隊司令長官、各要港部司令官、海軍教育本部長、海軍總政本部長、水路部長、臨時海軍建築部長、海軍省各局長共ノ他直接ニ海軍大臣ニ隷屬スル艦官ヲ謂フ

第四條 本則ニ於テ屬長ト稱スルハ各屬ノ長ヲ謂フ艦隊司令官、望樓監督官等ノ如ク其ノ部下ニ隷屬屬ヲ有スル諸官及軍法會議上席主理モ亦屬長ニ準ス

長官ハ其ノ屬若ハ幕僚ニ對シテハ屬長ト看做ス

第五條 長官ハ其ノ部下ニ對シテハ所屬長官ト稱シ各屬長ハ其ノ部下ニ對シテハ所屬長ト稱ス

第六條 各屬ニハ件名簿ヲ備ヘ之ニ公文ノ件名ヲ登記シ以テ處分ノ始終ヲ明ナラシムヘシ

件名簿ハ其屬號ヲ略シ及某機密號ノ二種トシ屬號ハ普通事件ニ關スル文書ノ件名ヲ登記シ機密號ハ秘密事件ニ關スル文書ノ件名ヲ登記スルモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名原番號アルモノハ等ヲ記入シ各一貫ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附點スヘシ但シ中間屬ニ於テハ其ノ進達傳達スルモノニ對シテハ本則中特ニ規定アルモノノ外之ニ番號ヲ附點スヘカラス

第七條 各屬ニ於テ諸法令中疑義アルトキハ其ノ主務屬ニ質疑スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ主務屬直ニ之ヲ説明スヘシ但シ重要ナル事項ハ回答ニ先キ所屬長官ノ閱覽ニ供スヘシ

第八條 海軍大臣、所屬長官共ノ他上官ニ進達スル公文ハ特別ノ規定アルモノノ外總テ順序ヲ逐ヒ所屬各部ヲ經由スルヲ要ス部下ニ對スル令達指令等亦之ニ準ス

特ニ至急ヲ要スト認ムル公文ハ所屬各部ヲ經スシテ直ニ必要ノ向ヘ送附スルカ又ハ必要ノ各部ニ一通死送附スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ旨關係ノ向ヘ報告若ハ通報スヘシ

第九條 總て公文ハ所定ノ野紙ニ書シ番號ヲ附シ本文ヲ書スルニ先チ其ノ大要ヲ摘記スヘシ提出者代理ナルトキハ官氏名ヲ書シ其ノ右肩ニ何職代理ト書スヘシ提出者代理又ハ心得ナルトキモ亦其ノ本職印ヲ捺シ職印ナキトキニ限り自己ノ印ヲ捺スヘシ以下之ニ依ル

第十條 官吏自己ノ身上ニ關スル願伺届書等ハ美濃白紙ニ書シ自己ノ印ヲ捺スヘシ

第十一條 大臣宛ノ願伺届書等ニハ自己ノ名ノ上ニ其ノ職名ヲ附記スヘシ

第十二條 所屬長官若ハ所轄長官ノ部下ノ者ヨリ差出ス公文書類ヲ海軍大臣若ハ上官ニ進達スルトキハ該公文ノ前ナル空欄ニ月日該公文提出當時ノ年ヲ及進達ノ二字ヲ朱記シ職印ヲ捺スヘシ前項ノ場合ニ於テ該公文ニ意見ヲ附スルニハ別紙ニ記シ之ニ進達ノ旨ヲ記入シ番號ヲ附點シテ該公文ニ添附スヘシ

第十三條 特別ノ規定アルモノヲ除キ文書ハ總テ一通ヲ出ヌヲ例トス經由スル諸處ニ在テ寫ヲ要スルトキハ必要缺クヘカラサルモノニ限り其ノ願ニ於テ書寫スヘシ

第十四條 指令ハ其ノ差出願長又ハ差出人ニ向テ下スベキモノトス但シ受附處ニ於テ其ノ留置ヲ要セスト認ムルモノハ直ニ其ノ本書ニ指令文ヲ書シ必要アルトキハ附箋ニ其ノ理由ヲ記シ下附スルコトヲ得

第十五條 指令ヲ取次ク願ニ於テハ重要事件ハ願長之ニ捺印シ其ノ他ハ別ニ之ニ記入若ハ捺印スルコト無ク差出願又ハ差出人ニ下附スヘシ

第十六條 官吏事務ヲ取扱フニ當リテハ主務者ニ限り其ノ公文ノ所定ノ位置若ハ紙端ニ自己ノ印

ヲ捺シ起案調査處辨若ハ領知ノ證トナスヘシ但シ職印ヲ捺ス場合ニハ此ノ限ニアラス

第十七條 官ノ機密ニ關シテハ官吏服務規律ニ依ルヘキモ軍事ニ關スル事項ハ特ニ其ノ漏洩ヲ避クルコトニ注意スヘシ

第十八條 各處ヨリ發送スル公文ハ其ノ宛名諸官ノ必ス親ヲ開封ヲ要スルモノニ限り其ノ封筒面左側ニ親展ト朱記スヘシ又機密文書ハ其ノ封筒面左側ニ秘ト朱記シ其ノ人事ニ關スルモノハ「人秘」ト朱記スヘシ

第十九條 軍機ニ關スル公文其ノ他重要ナル機密文書ヲ發送スルニハ内外二重ノ封筒ヲ用フヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ朱記文ハ之ヲ其ノ内封筒面ニ記スヘシ

第二十條 各處ニハ必要ト認ムルトキハ勤務簿ヲ置キ官吏ヲシテ毎日出勤ノトキ之ニ捺印セシメ各願長之ヲ監査スヘシ

第二十一條 官吏退出後ヨリ翌朝出勤時刻迄ノ間及休暇日ニ於テ事務ノ取扱ヲ要スル願ニ於テハ宿直ヲ置クヘシ

第二十二條 宿直ハ平常判任官ヲシテ交替勤務セシムルモノトス戰時事務ニ當リテハ長官ハ事務ノ繁簡ニ應ジ適宜之ヲ定ムヘシ

第二十三條 宿直ヲ置カサル各處ニ於テ退出後ヨリ翌朝出勤時刻迄ノ間及休暇日ニ到來スル公文ノ受附ニ關スル事件等ハ所屬長官ノ認許ヲ經テ適宜ノ方法ヲ設クヘシ

第二十四條 各願長ハ防火ニ關スル相當ノ内規ヲ定ムヘシ

第二十五條 各處近傍出火ノ際ハ其ノ應勤務ノ者ハ勤務時間外ト雖速ニ出勤シ所轄長ノ指揮下ニ進退スヘシ

第二十六條 各願長ハ部下諸員ノ有スル辭令文面ノ範圍内ニ於テ之ニ職務ノ分擔ヲ命シ又ハ其ノ

所屬ヲ定ムヘレ但シ職務ニ關シ特ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第二十三條 各廳長ハ臨時事務ノ繁閑ニ依リ甲務ノ重員ニ乙務ノ補助ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 長官及各廳長ハ旅費豫算配付額以內ニ於テ部下諸員ニ公務旅行ヲ命スルコトヲ得但シ長官自ラ公務旅行ヲサントスルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第二十五條 海軍各部ノ職員新任若ハ轉勤轉職ノ場合ニハ辭令ヲ受領シタル日ヨリ其ノ職責ハ總テ新職員ニ移ルモノトス辭令ニ代フヘキ電信通知ヲ得タルトキ亦同シ但シ事務引繼ヲ終ラズシテ舊職員殘留シ新職員未ダ就職セサル間ハ舊職員ハ依然其ノ職責アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ舊職員退職シ新職員未ダ就職セサル間ハ新職員事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルモノト看做シ規定ニ從ヒ部下首席者其ノ代理ヲナスカ若ハ之カ代理者ヲ命スヘキモノトス

職責ニ關シ所轄長ノ指定ヲ要スル職員ハ前諸項ニ依ルノ限ニアラス故ニ此等ノ職員轉免ノ場合ニ於テ辭令受領後仍ホ前職務ヲ執ラシムヘキ必要アルトキハ所轄長適宜之ヲ命スヘシ

第二十六條 官吏轉勤轉職等ノ節出發期日ニ至リ病氣ノ爲出發スル能ハサルトキハ長官ニ在テハ直ニ海軍大臣ニ、其ノ他ノ高等官ニ在テハ舊所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ、判任官ニ在テハ舊所轄長ヲ經テ舊所屬長官ニ届出テ舊所轄長ハ之ヲ新所轄長ニ通知スヘシ又事務引繼等ノ爲出發延期ヲ要スルトキハ舊所轄長ハ新所轄長ニ之ヲ通報シ各所屬長官ニ報告スヘシ

第二十七條 官吏待命休職停職豫備役後備役退役若ハ免官廢官トナリ事務引繼ヲ要スルトキハ所屬長官ハ豫メ期限ヲ定メ海軍大臣ノ認許ヲ得テ之ヲ命スヘシ但シ其ノ引繼七日以內ニ終了スルモノハ所屬長官限リ之ヲ命ス共ノ官人事局長ニ通報スヘシ

○海軍省達第百二十七號

明治二十一年達第百三十五號明治二十四年達第五十九號ヲ廢ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

(参照)

明治二十一年十一月廿一日海軍省達第百三十五號ハ文官事務規則ノ件同二十四年三月八日海軍省達第五十九號ハ旅費ノ豫算配付額以內ニ於テ長官部下諸員ニ旅行ヲ命スルコトヲ得ルノ件ナリ

○海軍省達第百二十八號

明治三十年達第百一號廢入廢出取扱規程中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年十一月十日

第三十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但最終支出明細報告書ノ外第五條第二項ニ據ル整理科目ノ各節支出額ハ掲記スルヲ要セス

第三十八條第三項ヲ左ノ通改正ス
委任仕拂命令官最終支出明細報告書ヲ送付スルトキハ別ニ經費所屬ノ各廳區分ニ從ヒ第二十六號書式ノ内課書ヲ作リ經理局長ニ送付スヘシ

第四十一條第一項中現計書ノ次ニ及第二十七號書式ノ外貨支出報告書ヲ加フ
第六十二條中軍港内ニアル各廳及ノ下ニ臺灣總督府海軍幕僚ヲ加フ

○海軍省達第百二十九號

明治二十七年達第百二十二號計算帳簿規程中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條中五 各明經費内限海ヲ削除ス
第四條中二 金庫月別整理簿ヲ削除ス

○海軍省第百三十號

明治三十三年五月通第八十號兵備品出納命令官會計官吏別表ノ通改正ス
明治三十六年十一月十日 海軍大臣男爵山本權兵衛

(別表)

兵備品出納命令官會計官吏表

品名	出納命令官		會計官吏	
	遺兵廠長	先任検査官	武庫主管	
兵器彈藥水雷及附屬品	遺兵廠長	先任検査官	武庫主管	
秘密圖書	下瀬火藥製造所長	下瀬火藥製造所書記	文庫主管	
	海軍省先任副官	文庫主管	鎮守府後任副官	
測器簿圖	鎮守府參謀長	測器庫主管		
	水路部部長	水路部圖誌科長		
測器庫主管	水路部部長	水路部測器科長	測器庫書記	

○海軍省第百三十一號

明治三十三年五月通第八十一號通常物品出納命令官會計官吏別表ノ通改正ス

(別表)

海軍大臣男爵山本權兵衛

通常物品出納命令官會計官吏表

品名	出納命令官		會計官吏	
	經理局長	經理局長	經理局長	經理局長
本省機内各課・用物品及因使致所屬物品	經理局長	經理局長	經理局長	經理局長
經理局需用物品	經理局長	經理局長	經理局長	經理局長
海軍用治練物品	經理局長	經理局長	經理局長	經理局長
東京所在各團普通圖書(學校練習所ヲ除ク)	本省先任副官	文庫主管		
海軍省新購物品 廢兵器	遺兵廠會計部長	材料庫主管		

○海軍省第四百一十一號

治療品經理規程別冊ノ通定

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

治療品經理規程

- 第一條 本規程ニ於テ治療品ト稱スルハ治療及衛生試驗ニ關スル物品並其ノ修理用品ヲ云フ
- 第二條 治療品ヲ區別シテ療用品及藥品トシ療用品ヲ更ニ分チテ定備療用品及消耗療用品トス
定備療用品トハ治療用定備品、試驗用定備品、修理用定備品ヲ云ヒ消耗療用品トハ治療用消耗品、試驗用消耗品、修理用消耗品ヲ云ヒ藥品トハ治療用藥品、試驗用藥品ヲ云フ
- 第三條 定備療用品ハ備品ノ取扱トシ消耗療用品及藥品ハ第一種消耗品ノ取扱トス但シ貸與ノ爲メ備フル療用品ハ貸與品、又生産ノ爲メ支出スル消耗療用品及藥品ハ材料品ノ取扱トス
- 第四條 艦團共ノ他各部ニ備フル治療品ノ品名、定數、年額ハ甲號表ニ、驅逐艦ニ備フル治療品ノ品名、定數、年額ハ乙號表ニ、病院ニ備フル治療品ノ品名、定數ハ丙號表ニ、療品庫ニ備フル貸與療用品ノ品名ハ丁號表ニ依ル
- 治療用定備品及貸與療用品中入附品目ノ明細ハ戊號表ニ、又治療用藥品中藥局方ニ記載ナキ製劑ノ成分含量ハ己號表ニ依ル
- 第五條 兵備品會計官吏ハ甲、乙、丙、丁號表ニ掲グル治療品及戊號表ニ掲グル各品目中消耗療用品並藥品ヲ適宜常備シ供給上差支ナキヲ期スヘシ
- 第六條 艦團共ノ他各部ニ要スル治療品ハ在籍若ハ所管鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給シ鎮守府所管ニアラサル艦ニ要スル治療品ハ最寄鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給ス

第七條 兵備品會計官吏治療用定備品ヲ供給スルノ際其ノ品目員數戊號表ト一致セサルモノアルトキハ特ニ品目明細表ヲ作り添付スヘシ

第八條 艦團共ノ他各部ニ要スル藥品ハ甲第三、四號表、乙第二、四號表ニ掲グル容器ヲ用ヒ供給スルモノトス若シ請求量額ニ端數アリテ其ノ端數容器トキハ小容器ノ量額ニ違セサルトキハ該容器ノ全量ヲ供給スルコトヲ得

第九條 兵備品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ治療品ヲ供給スルコトヲ得若シ供給後該品補填ノ必要アルトキハ其ノ艦船在籍ノ鎮守府兵備品會計官吏ニ對シ戻入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

兵備品會計官吏ハ貯藏ノ治療品缺乏若ハ過剩ヲ生シタルトキハ相互ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得

第十條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ニ消耗療用品若ハ藥品ヲ供給シタルトキハ該艦船在籍ノ鎮守府兵備品會計官吏ニ其ノ品名、數量ヲ報告スヘシ

第十一條 出納命令官ハ艦船航海若ハ流行病發生共ノ他特ニ必要ノ際艦團共ノ他各部ニ於テ規定外又ハ定額外ノ治療品ヲ要スルトキハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ供給セシムルコトヲ得

鎮守府司令長官前項ノ場合ニ於テ本規程ニ掲載セサル治療品ノ供給ヲ認可シタルトキハ其ノ品名、數量及請求ノ事由ヲ記シ海軍大臣ニ申報スヘシ

第十二條 出納命令官ハ要港部兵學校、大湊水雷團監獄ニ於テ規定外又ハ定額外ノ治療品ヲ要スルトキハ第十一條一項ノ手續ニ依ラス之ヲ供給セシムルコトヲ得但シ本條ニ依ル規定外品ノ供給ハ丙號表ニ掲グル品種ニ限ル

第十三條 艦船出航ニ際シ翌年度ノ治療用消耗品及藥品ノ受入ヲ要スルトキハ之ヲ供給スルコト

ヲ得

第十四條 兵備品取扱主任治療品ノ受入ヲ要スルトキハ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

消耗療用品及藥品中年度末ニ至リ殘餘アルモノハ翌年度額内ニ算入スヘシ

年額ノ規定アル治療品ハ治療品受拂現況報告書提出後之ヲ請求スルヲ例トス

第十五條 艦船鎮守府隔絶ノ地ニ在テ治療品缺乏スルトキハ最寄艦團共ノ他各部ノ兵備品取扱主任ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 艦船外國航海中又ハ鎮守府隔絶ノ地ニ在テ臨時治療品ヲ要シ成規ノ請求ヲ爲ス限ナキトキハ直接購買スルコトヲ得但シ規定外ノ治療品ハ丙號表ニ掲クル品種ノ外購買スルコトヲ得

艦團共ノ他各部ニ於テ治療上水蛭、水痘苗、血清藥、腸室扶斯斷液ヲ要スルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス直接購買スルコトヲ得但シ水蛭、水痘苗ハ治療用消耗品、痘苗、血清藥、腸室扶斯斷液ハ治療用藥品トシテ之ヲ取扱フヘシ

第十七條 第十五條ノ場合ニ於テ消耗療用品若ハ藥品ノ供給ヲ爲シ且兵備品會計規程ニ依リ所屬兵備品會計官吏ニ對シ還納ノ手續ヲ了シタルトキ共ノ請求ヲ爲シタル艦船他鎮守府在籍ナルトキハ該兵備品會計官吏第十條ニ準シ報告ヲ爲スヘシ

第十八條 兵備品會計官吏ハ艦船共ノ籍ヲ轉レタルトキハ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ對シ該艦船備附定備療用品ノ保管轉換ヲ爲スヘシ

第十九條 艦團共ノ他各部ニ於テ軍醫官ノ定員若ハ配置ヲ廢シタルトキハ兵備品取扱主任現在治療品ヲ還納スヘシ

第二十條 艦船在籍鎮守府隔絶ノ地ニ在テ治療品ノ還納ヲ要スルトキハ兵備品取扱主任便宜之ヲ他鎮守府兵備品會計官吏ニ還納スルコトヲ得

第二十一條 艦團共ノ他各部ニ於テ療用品ノ修理ヲ要スルトキハ兵備品會計官吏ニ之ヲ請求スヘシ但シ軍港外ノ地ニ在テ至急修理ヲ要スルトキハ之ヲ共ノ地ノ請負人ニ命スルコトヲ得

第二十二條 兵備品取扱主任ハ治療品中天災共ノ他ノ事故ニ由リ亡失毀損シタルモノアルトキハ共ノ事由ヲ詳記シタル原簿第一號書ヲ作り所轄長ノ證明ヲ得所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スヘシ傳染病毒汚染ノ爲メ治療品ヲ燒却シタルトキ亦同シ

第二十三條 兵備品取扱主任ハ患者兵役ヲ免セラレ歸郷スル際軍醫官ニ於テ治療品ノ攜帶ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ給與スルコトヲ得但シ定備療用品ヲ給與シタルトキハ共ノ品名、數量並事

由ヲ詳記シタル原簿第一號書ヲ作り所轄長ノ證明ヲ得之ニ本人ノ領收證書ヲ添ヘ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スヘシ

前項ノ規定ハ職工共ノ他ノ者ニシテ公務ニ原因スル患者ニ適用スルコトヲ得

第二十四條 兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任出納及受拂ノ諸證書ヲ作ラントスルトキハ消耗療用品及藥品ヲ各別紙ニ記シ調製スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル治療品給與、亡失毀損、燒却賣却及殘高報告書第二號書ヲ調製シ出納命令官ヲ經テ翌年二月末日迄ニ海軍省醫務局長ニ出スヘシ

第二十六條 兵備品取扱主任ハ毎年四月二十日迄ニ前年度ノ治療品受拂現況報告書第三號書ヲ調製シ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ出スヘシ但シ第十九條ノ場合ニ於テハ共ノ際調製

受拂遣ヲ添ヘ出スヘシ

第二十七條 兵備品取扱主任ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル治療品消費報告書(第四號)ヲ調製シ翌年一月二十日迄ニ所屬出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ審査シ二月末日迄ニ海軍省醫務局長ニ出スヘシ但シ第十九條ノ場合ニ於テハ其ノ際調製シ出スヘシ

第二十八條 兵備品取扱主任交替ノトキハ帳簿、證書書類並現在治療品ヲ授受シ現在品引繼書(第五號)一通ヲ調製シテ之ニ各自署名捺印シ後任者之ヲ保管スヘシ但シ受拂現況報告書及消費報告書ハ其ノ際調製セス後任者一併ニ調製シ之ニ各取扱主任ノ管理期ヲ記載スヘシ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

附則

第二十九條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行シ治療品出納規程ハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

(裁及番式略ス)

○海軍省第四百四十二號

海軍軍人軍屬休暇規則左ノ通定ム

明治三十六年十一月十日

海軍軍人軍屬休暇規則

海軍大臣 野村 浩平

第一條 海軍軍人軍屬ハ公暇日若ハ公許セラレタル場合ノ外本則ニ依リ休暇ヲナスコトヲ得

第二條 艦團其ノ他各部ヲ管下トシテ在スル各部員ノ上陸外出ニ關シテハ各鎮守府司令長官艦隊司令長官各要港部司令官、軍港區域内ノ練習所ニ在ル下士卒ニ關シテハ當該鎮守府司令長官之ヲ

定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 海軍兵學校海軍機關學校ノ生徒及下士卒ノ外出ニ關シテハ海軍教育本部長之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 准士官以上(候補生ハ高等官ニ及文官病氣ノ爲公務ニ從事スルコト能ハサルトキハ七日以内ハ所轄長ニ届出ヘシ八日以上ハ置證ヲ添ヘ長官ニ在テハ海軍大臣ニ、其ノ他ノ高等官ニ在テハ所屬長官ニ、准士官及判任文官ニ在テハ所轄長ニ届出ヘシ)尙出勤スル能ハサル者ハ二十一日毎ニ届出ヘシ

前項ニ依リ届出ヲナシタル者出勤シタルトキハ其ノ旨届出ヘシ

第八日以上ノ缺勤ハ高等官ニ在テハ所屬長官ヨリ之ヲ人事局長ニ通報シ准士官及判任文官ニ在テハ其ノ所轄長ヨリ之ヲ所屬長官ニ報告シ所屬長官ハ之ヲ人事局長ニ通報スヘシ其ノ出勤亦同シ

第五條 准士官以上及文官其ノ勤務場所所在地ニ在テハ父母妻子ノ病氣看護其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲公務ニ從事スルコト能ハサルトキハ四日以内ヲ限リ所轄長ニ於テ之ヲ許スコトヲ得

前項ノ日數以外ノ缺勤ヲ爲サントスルトキハ長官ニ在テハ海軍大臣ニ、其ノ他ノ高等官ニ在テハ所屬長官ニ、准士官及判任文官ニ在テハ所轄長ニ届出テ其ノ認可ヲ受クヘシ但シ同時ニ八日以上出願スルコトヲ得ス

艦團其ノ他各部ニ在勤スル者ニハ本條第一項ヲ適用セス

第六條 准士官以上及文官喪ニ丁ルトキハ長官ニ在テハ海軍大臣ニ、其ノ他ノ高等官ニ在テハ所屬長官ニ、准士官及判任文官ニ在テハ所轄長ニ届出ヘシ其ノ喪中長官若ハ所轄長ハ除服出勤ヲ命スルコトヲ得

艦隊共ノ他各部ニ在勤スル者ニハ本條ヲ適用セス

第七條 准士官以上及文官父母妻子ノ病氣看護ノ爲若ハ其ノ死亡ニ當リ旅行セントスルトキ又ハ自己ノ病氣ノ爲轉地療養ヲナサントスルトキハ往返ノ途中ニ要スル日數ヲ除キ二十一日以内ヲ限リ長官ニ在テハ海軍大臣ニ、其ノ他ノ高等官ニ在テハ所屬長官ニ、准士官及判任文官ニ在テハ所屬長官ニ願出テ其ノ認許ヲ受クヘシ但シ轉地療養ニハ醫證ヲ添ヘ願出ヘシ
前項ノ場合ニ於テ延期ヲ要スルトキハ更ニ同一ノ手續ニ依リ追願シ轉地療養ナルトキハ醫證ヲ添ヘ願出ヘシ
前二項ニ依リ認許ヲ得タル者ハ其ノ出發歸著トモ其ノ都度届出ヘシ
艦隊共ノ他各部ニ在勤スル准士官以上病氣ノ爲其ノ勤務場所所在ノ地方ニ在テ療養ヲナサントスルトキハ第四條ニ依ルヘシ

第八條 海軍兵學校生徒及海軍機關學校生徒父母ノ病氣看護ノ爲若ハ其ノ死亡ニ當リ旅行セントスルトキ又ハ自己ノ病氣ノ爲自費ヲ以テ轉地療養ヲナサントスルトキハ前條准士官ニ準シ之ヲ認許スルコトヲ得

第九條 准士官以上及文官自己ノ身上ニ關シ止ムヲ得サル事故ニ依リ旅行セントスルトキハ第七條ニ準シ之ヲ願出ルコトヲ得所屬長官若ハ所轄長ハ事情止ムヲ得サルモノト認メ且公務ニ差支ナキトキニ限リ之ヲ認許スヘシ
第十條 公許セラレタル休假期日内ニ於テ旅行セントスル者ハ長官ハ海軍大臣ニ、其ノ他ノ高等官ハ所屬長官ニ判任官ハ所屬長官ニ届出ヘシ
第十一條 一般ニ學中休暇ヲ許サレタル場合ト雖艦隊共ノ他各部ニ在勤スル者ニハ第二條ニ依リ

上陸外出ヲ許スノ外休暇ヲ爲サシムルコトナシ

第十二條 長官ニ於テ高等官ノ旅行若ハ轉地療養ヲ認許シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ
所轄長ニ於テ准士官若ハ判任官ノ旅行若ハ轉地療養ヲ認許シタルトキハ之ヲ所屬長官ニ報告シ所屬長官ハ之ヲ人事局長ニ通報スヘシ

第十三條 演習若ハ檢閲ニ關係シタル海軍軍人軍屬ニハ演習統監、所屬長官又ハ所轄長ニ於テ之ニ三日以内ノ休暇ヲ許スコトヲ得臨時特別ノ任務ニ服シ共ノ勞多キ者亦同シ但シ所轄長之ヲ許シタルトキハ所屬長官ニ報告スヘシ

第十四條 臺灣總督府若ハ馬公要港部ニ勤務スル海軍軍人及海軍文官ニシテ精勤六箇月以上ニ互ル者内地ヘ轉勤シタルトキハ該日數六箇月毎二十日以内ノ割合ヲ以テ所屬長官若ハ所轄長之ニ便宜二十一日以内ノ休暇ヲ許スコトヲ得此ノ場合ニ於テ所轄長ハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ

外國ニ勤務シタル者又ハ公務ヲ帶ヒ外國ニ旅行シタル者歸朝シタルトキ亦前項ニ準ス
第十五條 再服役ヲ許可シタル下士卒ニシテ籍省ヲ願出ルトキハ所轄長ハ該服役ノ一期間一回ヲ限リ適當ノ時機ニ於テ往返ノ途中ニ要スル日數ヲ除キ七日以内之ヲ許スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ所屬長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條 艦隊共ノ他各部以外ノ應ニ勤務スル下士卒ノ休暇ニ關シテハ前諸條ニ準シ所屬長官適宜之ヲ定ムヘシ
第十七條 雇員傭人ノ休暇若ハ上陸外出ハ前諸條ニ準シ所轄長適宜之ヲ許スコトヲ得

第十八條 戰時事變其ノ他所屬長官若ハ所轄長ニ於テ公務上差支アリト認ムルトキハ一般ニ休暇

若ハ上陸外出ヲ許サ、ルコトヲ得上陸外出ヲ許ストキハ衛生上差支アリト認ムル場合亦同シ

○海軍省達第四百四十三號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第十二條ヲ删除シ第十三條ヲ第十二條ニ改メ第十三條乙ヲ第十三條ニ改ム

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第九十六號海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則 明治三十一年六月二十三日抄録
第十二條 臺灣總督府若ハ馬公水雷敷設隊在勤ノ准士官以上ニシテ輪船百日以上ニ互ル者交代シ内地へ歸還スルトキハ便宜各百十日以内ノ休暇ヲ許可スルコトヲ得

○海軍省達第四百四十四號

教育圖書供給規程左ノ通定ム

明治三十六年十一月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

教育圖書供給規程

第一條 本規程ニ於テ教育圖書ト稱スルハ艦團部ニ於テ要スル教育圖書ヲ謂フ
艦團部ト稱スルハ艦團要港部砲術練習所水雷術練習所ヲ謂フ
教育圖書ハ備品及貸與品トス

第二條 教育圖書ハ海軍教育本部ヨリ海軍測器庫ニ供給シ所要ノ向ヘ配布セシム

第三條 教育本部長教育圖書ヲ新ニ艦團部ヘ配布セントスルトキハ之ニ配布部數表ヲ添ヘ海軍測

器庫ニ供給ス

海軍測器庫ハ前項ノ供給ヲ受ケタルトキハ配布表ニ依リ速ニ之ヲ艦團部ヘ供給スヘシ

第四條 艦團部ニ於テ要スル教育圖書ハ所管若ハ在籍鎮守府海軍測器庫之ヲ供給ス但シ練習所ニ對シテハ横須賀海軍測器庫之ヲ供給ス

海軍測器庫ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ教育圖書ヲ供給スルコトヲ得

第五條 海軍部外ニ於テ教育圖書ヲ要スルモノアルトキハ教育本部長ノ承認ヲ得テ貸渡スコトヲ得

第六條 艦團部ニ於テ教育圖書ノ借入ヲ要スルトキハ借用證ニ使用ノ目的及借用期限ヲ記入シ海軍測器庫ニ請求スヘシ

第七條 教育圖書取扱主任ハ毎年十一月十五日ニ於ケル現在圖書ノ書名及番號ヲ甲號書式ニ依リ同月末日マテ當該海軍測器庫ニ報告スヘシ

海軍測器庫ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ帳簿ニ照合シ更ニ十一月十五日ニ於テ調査シタル在庫數ヲ合シ乙號書式ニ依リ十二月末日マテニ教育本部ニ報告スヘシ

第八條 艦團部ニ於テ教育圖書ノ不用ニ歸シタルモノアルトキハ之ヲ當該海軍測器庫ニ返附スヘシ

附則

本規程ハ明治三十六年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

(書式略ス)

○海軍省達第四百四十五號

海軍信號誌ヲ制定シ信號日誌ヲ廢ス

明治三十六年十一月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百四十六號

本年達第六十五號海軍造船材料試驗規格へ別表添付製造用木材ノ部ヲ追加ス (別表略ス)

明治三十六年十一月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百四十七號

海軍下士卒履歷表取扱及記注心得中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第七號第二項中「持俸」ヲ削ル

第九號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

十 履歷表中家族ノ欄ニハ本人ノ戸籍中ニ在ル祖父母父母妻子兄弟姉妹ヲ記入シ戸主ニハ別ニ戸主ト點記スルモノトス

十一 現役中又ハ召集中ニ死亡セシ下士卒ノ履歷表ハ所屬長ヨリ之ヲ家族ニ送附スヘシ

○海軍省達第百四十八號

中城海軍品支庫ヲ廢ス

明治三十六年十一月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百四十九號

赤ノ三十七年一月一日ヨリ驅逐艦ニ在テハ水雷艇機關日誌ヲ使用スヘシ

明治三十六年十一月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百五十號

明治三十六年達第三號中海軍造船廠進兵廠兵器廠ヲ海軍工廠ニ改ム

明治三十六年十一月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百五十一號

糧食經理規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十一月二十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第六條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 海軍糧食條例第一條第三項ノ第三乃至第七ノ場合

第七條ノ二 水雷艇所屬部團所在地外ニ在リテ糧食ヲ自辨セシムルトキハ食數ニ應シ割増食料ヲ支給ス

驅逐艦及水雷艇乗員陸上ニ在リテ海軍糧食條例第六條第四ニ該當スルトキ若ハ水雷艇其ノ所屬部團所在地ニ在リテ該部團ヨリ糧食ノ給與ヲ受クルトキハ割増食料ヲ支給セス

第十六條 先任衛兵伍長ハ先任衛兵伍長トキトキハ毎日午前九時迄ニ翌日ノ食數報告票ヲ副製シ之ヲ副長所轄長ノ次席者以下之ニ依リ出シ副長ハ之ヲ調査檢印ノ上糧食取扱主任ニ移スヘシ後異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第二十三條 水雷艇若ハ雜役船舟出航スルトキハ非常準備トシテ乾麵包貯藏獸魚肉砂糖ヲ搭載シ必要ニ應シ毎食乾麵包五十匁貯藏獸魚肉四十五匁砂糖十六匁ヲ給與スルコトヲ得

食料ノ支給ヲ受クル者前項ノ給與ヲ受ケタルトキハ食數ニ應シ食料ノ支給ヲ停止ス

第三十五條ノ二 糧食取扱主任交替ノ際現品ノ引繼ヲ了シタルトキハ其ノ日ヨリ十五日以内ニ前

明治三十六年十一月 海軍省達第百五十一號

條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ後任者一併ニ報告ヲ調製スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ末尾ニ各糧食
取扱主任執行ノ管理期ヲ記載シ後任者署名捺印スヘシ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ
第一表中備考末段ニ左ノ三項ヲ加フ

一週一回限リ骨付生獸肉六十匁ヲ骨付生鳥肉五十匁ニ換給スルコトヲ得
驅逐艦水雷艇乗員ニハ骨付生獸肉ヲ無骨生鳥獸肉ニ換給スルコトヲ得
在監ノ患者共ノ病狀ニ依リ白粥ヲ給スル必要アルトキハ一食ニ付白米三十匁ヲ給シ乾麵包若ハ
生麵包ヲ給セス
第二表中豆ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

白米	五十匁	乾麵包	三十五匁
		生麵包	四十五匁

様式中供食撤報告ヲ削リ食撤報告票ヲ加フ

用紙美濃紙四ツ切

報 撤 食		副 長 一 主 副 長	某 艦 國 部
食 定 規	實 食 數	明 治 年 月 日	
食 者 必 數	食 料 數	下 士 卒 傭 人	何 人 船 長 任 務 兵 伍 長 官 氏 名 印
食 宜 應	食 料 數	不 在 者 上 陸	
條 五 第 例 條	食 料 數	不 給 食 數	
條 六 第 例 條	食 料 數	計	
計	食 料 數	計	

票 告			
朝	晝	夕	夜

- 備考 一 割増食料ヲ給スルモノハ通常食料ト區分附載スヘシ
- 二 食數ニ異動ヲ生スヘキ事項ハ油ナク掲載スヘシ
- 三 食單別食數ヲ備考ニ掲載スヘシ

○海軍省違第五十二號
明治二十七年違第三十三號艦團部隊金錢出納規程中左ノ通改正ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

第七條第二項ヲ左ノ通改正ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

一 目中各節ノ増減ヲナシタルトキハ其月ノ現計書備考ニ増減額ヲ掲載スヘシ

第八條中「六月三十日」ヲ「五月三十一日」ニ改正ス

第九條第三號ヲ左ノ通改正ス
外國航海中ニ於テハ電報ヲ以テ納受ノ手續ヲナスヘシ
(書式中削除アリ略ス)

○海軍省違第五十二號
被服經理規程中左ノ通改正ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十六年十一月二十四日

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二表ニ依リ同時ニ新品ヲ交付シタルトキハ先ニ古品ヲ交換シ其ノ時ヨリ新品ノ交換期限ヲ起算ス

第三十三條ノ二 兵備品會計官吏ノ貯藏スル被服物品ノ容器容量ハ第十二表ニ依ル被服取扱主任被服物品ヲ多數ニ受込マントスルトキハ成ヘク容器ノ容量ニ適當スル數量ヲ請求スヘシ

第四十七條 被服取扱主任交替ノ際現在品引繼ヲ了リタルトキハ其ノ日ヨリ十五日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ後任者一併ニ報告書ヲ調製スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ末尾ニ各被服取扱主任執行ノ管理期ヲ記載シ後任者署名捺印スヘシ代理官ヲ命ゼラレタルトキ亦同シ

第四十八條ニ左ノ一項ヲ加フ
鐵守府幕僚、望樓監督官、兵隊官及工廠、經理部ノ被服取扱主任ハ所在經理部衣料ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
第五十條 本達ニ依リ製式ヲ變更セシ被服物品ハ貯藏品ノアル限り混用スヘシ
(表中改正追加アリ略ス)

○宮内省通甲第七號

宮内省官制第二十九條中侍從及侍從試補ノ項ヲ左ノ通改ム

侍從 十四人 一人 二人 三等以下五等以上

常侍奉仕シ御服御物ヲ分掌ス

次侍從 二人 六等七等

常侍從ニ亞シ

同官制第五十條宮内省高等官俸給表別項委任官ノ部第二項中「侍從侍從試補」ノ六字ヲ削除シ同第一項祕書官ノ次ニ侍從次侍從ヲ五字ヲ加フ

明治二十四年十二月宮内省通甲第四號第六項但書中「侍從」ノ二字ヲ削除ス

明治三十六年十二月二十六日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

【參照】

宮内省通甲第十號宮内省官制(明治二十二年七月二十三日抄録)

第二十九條中

侍從 十五人

常侍奉仕シ御服御物ヲ分掌ス

侍從試補 三人

常侍從 二人

○宮内省通乙第一號

來明治三十七年一月東京御所へ拜觀シ又ハ參觀シ得ヘキ者ニシテ地方ニ在ルトキハ左ノ書式ニ據リ御覽ヲ東京御職ニ差出シ

第三條 現役一等卒ニシテ入隊後約一箇年ヲ過キ優秀ナル者ハ上等兵ニ進級セシメ
 第四條 中隊長ハ前條ニ該當スル者ヲ選ミ順序ヲ經テ聯隊長ニ稟申スヘシ
 第五條 聯隊長ハ前條ノ稟申ヲ審査シ順序ヲ定メ中隊長ニ關員アル毎ニ上等兵ヲ命スヘシ但シ其ノ
 關員ハ同中隊ノ候補者ヲ以テ之ヲ補フモノトス
 第六條 上等兵ハ每年中隊ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ進級セシムルヲ例トス
 第七條 勳員ヲ行ヒタル部隊ヲ除クニ屬スル者ニ在リテハ第一條及第三條ノ期限ヲ約十箇月ニ
 短縮スルコトヲ得
 第八條 野戰部隊ニ在リテ其ノ勤務ノ成績顯著ナル者ハ前條ノ期限ニ拘ラス進級セシムルコト
 ヲ得
 第九條 充員召集又ハ補充召集ニ應ジタル豫備役後備役一等卒ニシテ召集後約六箇月ヲ過キ優秀
 ナル者ハ一等卒ニ同一等卒ニシテ召集後約十箇月ヲ過キ優秀ナル者ハ所要ニ應ジ上等兵ニ進
 級セシムルコトヲ得
 第十條 補充兵ハ初メ召集ニ應ジタルトキ二等卒ト爲シ其ノ召集日數ハ之ヲ通算ス約十箇
 月ヲ過キ優秀ナル者ハ一等卒ニ一等卒ト爲リタル者ニシテ召集後約十箇月ヲ過キ優秀ナル者
 ハ所要ニ應ジ上等兵ニ進級セシムルコトヲ得
 第十一條 本規則ニ於テ聯隊長トアルハ獨立大隊ニ在リテハ該隊長ニ該當ス
 ○陸軍部百四號
 陸軍現役下士ノ父母妻孥ニシテ兵籍ニ登記シタル者ハ衛戍病院若ハ該下士所屬ノ軍隊官術學校ニ

就キ軍醫ノ診斷ヲ受ケルコトヲ得
 明治三十六年十二月一日 陸軍大臣寺内正毅
 ○陸軍部百五號
 明治三十二年陸軍部百二十四號 陸軍部百五號 陸軍部百六號 陸軍部百七號 陸軍部百八號 陸軍部百九號 陸軍部百十號 陸軍部百十一號 陸軍部百十二號 陸軍部百十三號 陸軍部百十四號 陸軍部百十五號 陸軍部百十六號 陸軍部百十七號 陸軍部百十八號 陸軍部百十九號 陸軍部百二十號 陸軍部百二十一號 陸軍部百二十二號 陸軍部百二十三號 陸軍部百二十四號 陸軍部百二十五號 陸軍部百二十六號 陸軍部百二十七號 陸軍部百二十八號 陸軍部百二十九號 陸軍部百三十號 陸軍部百三十一號 陸軍部百三十二號 陸軍部百三十三號 陸軍部百三十四號 陸軍部百三十五號 陸軍部百三十六號 陸軍部百三十七號 陸軍部百三十八號 陸軍部百三十九號 陸軍部百四十號 陸軍部百四十一號 陸軍部百四十二號 陸軍部百四十三號 陸軍部百四十四號 陸軍部百四十五號 陸軍部百四十六號 陸軍部百四十七號 陸軍部百四十八號 陸軍部百四十九號 陸軍部百五十號 陸軍部百五十一號 陸軍部百五十二號 陸軍部百五十三號 陸軍部百五十四號 陸軍部百五十五號 陸軍部百五十六號 陸軍部百五十七號 陸軍部百五十八號 陸軍部百五十九號 陸軍部百六十號 陸軍部百六十一號 陸軍部百六十二號 陸軍部百六十三號 陸軍部百六十四號 陸軍部百六十五號 陸軍部百六十六號 陸軍部百六十七號 陸軍部百六十八號 陸軍部百六十九號 陸軍部百七十號 陸軍部百七十一號 陸軍部百七十二號 陸軍部百七十三號 陸軍部百七十四號 陸軍部百七十五號 陸軍部百七十六號 陸軍部百七十七號 陸軍部百七十八號 陸軍部百七十九號 陸軍部百八十號 陸軍部百八十一號 陸軍部百八十二號 陸軍部百八十三號 陸軍部百八十四號 陸軍部百八十五號 陸軍部百八十六號 陸軍部百八十七號 陸軍部百八十八號 陸軍部百八十九號 陸軍部百九十號 陸軍部百九十一號 陸軍部百九十二號 陸軍部百九十三號 陸軍部百九十四號 陸軍部百九十五號 陸軍部百九十六號 陸軍部百九十七號 陸軍部百九十八號 陸軍部百九十九號 陸軍部百十號
 明治三十六年十二月一日 陸軍大臣寺内正毅
 第三項中「但當分ノ内ニ等計手ハ總テ營外ニ居住セシム」ヲ削ル
 第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 六 懲治隊附下士中當置ノ者ハ營外ニ居住セシム
 ○陸軍部百六號
 陸軍士官勤務適任證書付與規則
 明治三十六年十二月一日 陸軍大臣寺内正毅
 (別紙)
 陸軍士官勤務適任證書付與規則
 第一條 士官勤務適任證書ハ戰時若ハ事變ニ際シ豫備役後備役士官ノ勤務ニ服セシムル爲各兵科
 各部ノ下士中品行方正勤務勤剛其ノ成績秀拔ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付與スルモノ
 トス
 一 各兵科ノ曹長ニシテ當該兵科ノ豫備役後備役士官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ具有スル者
 二 經理部一等計手ニシテ豫備役後備役經理部士官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ具有スル者
 三 衛生部下士ニシテ醫術精熟免狀若ハ藥劑師免狀ヲ所持シ豫備役後備役軍醫又ハ豫備役後備

役職別官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ具有スル者

第二條 士官勤務適任證書ハ左ノ三種トス

- 一 憲歩騎砲工輸重兵科士官勤務適任證書
- 二 經理部士官勤務適任證書
- 三 衛生部士官勤務適任證書

士官勤務適任證書ハ別表様式ニ依ルモノトス

第三條 第一條第一號ニ該當スル者アルトキハ隊附ニ在リテハ聯隊長ニ在リテハ該隊長ニ在リテハ該隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ具申シ共ノ認可ヲ請ケ現役滿期ノ際適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第二號ニ該當スル者アルトキハ師團及臺灣ニ在リテハ所管經理部長ヨリ木人ノ考科表寫ヲ添ヘ師團長ハ臺灣總督ヲ經テ陸軍省經理局長ニ具申シ共ノ認可ヲ請ケ共ノ他ニ在リテハ當該長官ヨリ木人ノ考科表寫ヲ添ヘ陸軍省經理局長ノ承認ヲ請ケ木人現役滿期ノ際適任證書ヲ付與スヘシ

第一條第三號ニ該當スル者アルトキハ師團及臺灣ニ在リテハ所管軍醫部長ヨリ木人ノ考科表寫及免狀寫ヲ添ヘ師團長ハ臺灣總督ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ具申シ共ノ認可ヲ請ケ共ノ他ニ在リテハ當該長官ヨリ木人ノ考科表寫及免狀寫ヲ添ヘ陸軍省醫務局長ノ承認ヲ請ケ木人現役滿期若ハ召集解除ノ際適任證書ヲ付與スヘシ

第四條 士官勤務適任證書ヲ付與シタルトキハ順序ヲ經テ共ノ官氏名ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 士官勤務適任證書ヲ付與シタルトキハ本人ノ軍隊手牒ニ共ノ旨ヲ記入シ且本籍所管ノ聯隊區司令官ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 士官勤務適任證書ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム

- 一 品位ヲ汚損スル所爲アルトキ
- 二 家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 三 賭博犯ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第七條 聯隊區司令官ハ士官勤務適任證書ヲ所持スル者ニシテ前條各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ其ノ事由ヲ悉シ師團長ニ具申シ認可ヲ請ケ本人ニ共ノ證書ノ返還ヲ命スヘシ

第八條 聯隊區司令官ハ士官勤務適任證書ヲ所持スル者ニシテ死亡シ又ハ傷痕疾病ニ依リ服役ヲ免シタルトキハ師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

本規則ハ明治三十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年陸軍第七十九號陸軍士官適任證書付與規則及明治三十二年陸軍第七十五號陸軍衛生部士官適任證書付與規則ハ之ヲ廢止ス

士官適任證書及衛生部士官適任證書ヲ所持スル者ニハ本規則第六條第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

○陸軍省附屬官給與規程

軍隊内務審中左ノ通改正セラル (改正略ス)

但レ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十六年十二月四日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍省附屬官給與規程

陸軍省附屬官給與規程別冊ノ通改正ス

明治三十六年十二月四日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍省附屬官給與規程

陸軍省附屬官給與規程別冊ノ通改正ス

明治三十六年十二月七日

陸軍大臣寺内正毅

(別冊)

陸軍省附屬官給與規程

第一條 本規程ハ士官准士官下士ノ増俸給與ヲ規定スルモノトス

第二條 士官准士官下士ノ増俸ハ行狀方正勤務勉勵ノ者ニ別紙區分表ニ依リ之ヲ給ス

第三條 各兵科ヨリ憲兵科經理部ニ轉シタル者又ハ營内居住ヨリ營外居住ニ轉シタル下士ニレ

テ既ニ上級ノ俸給ヲ受ケル者ニハ別ニ辭令ヲ用非ス該俸給ヲ給ス

第四條 増俸給與ヲ命スルハ左ノ各號ニ據ル

一 士官樂長補砲工兵上等工長ニ在テハ陸軍大臣ニ於テス

二 各兵一等階級工長ニ在テハ陸軍省軍務局長ニ於テス

三 各兵科特務曹長及隊附下士經理部衛生部ニ在テハ營隊隊長 砲兵隊工長ニ在テハ所管兵官生

之ヲ命シ隊外ノ下士ニ在テハ營隊官術學校長工長ニ在テハ所管兵官

經理部下士ニ在テハ支給區分毎ニ營隊經理部長ニ於テス但シ清國駐屯軍及韓國駐屯隊附ニ

在テハ原所管ノ經理部長ニ於テス

五 衛生部下士ニ在テハ支給區分毎ニ營隊軍醫部長ニ於テス但シ清國駐屯軍及韓國駐屯隊附ニ

在テハ原所管ノ軍醫部長ニ於テス

六 軍樂部下士ニ在テハ師團長若ハ戶山學校長ニ於テス

第五條 平時部隊ノ職務ニ就キタル豫備役後備役下士ハ現役者ト通算シ本規程ニ據リ共人員ヲ區

分ス

第六條 戰時若ハ戰變ノ爲メ召集セラレタル豫備役後備役下士ノ増給ヲナスニハ豫備役後備役ヲ

通シ親殺ト區別シ本規程ニ據リ共人員ヲ區分ス

附則

本規程施行ノ際既ニ上級ノ俸給ヲ受ケル者ニシテ給與人員ニ超過スル場合ニ在テハ其儘該俸給ヲ

給スルコトヲ得

(別紙)

士官准士官下士増俸給與區分表

階級	支給區分	在勤年數	給與人員
各兵科大尉尉			

第六條 前條ニ該當スル者アルトキハ聯隊區司令官ハ速ニ本人ニ適任證書ノ返還ヲ命シ且其ノ旨ヲ憲兵司令官ニ通知スヘシ

○陸軍部百十三號

經理部下士補充及交代規程左ノ通定ス

明治三十五年陸軍部百十六號上等計手及計手補充區分ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年十二月十七日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 軍隊官衙學校臺灣清國及韓國ニ在ルモソフ除クニ於テ經理部下士ノ補充ヲ要スルトキハ軍隊官衙學校長ヨリ近衛師團ニ係ルモノハ該師團經理部長ニ其ノ他ニ係ルモノハ師管區分ニ從ヒ當該師團經理部長ニ請求スヘシ

第二條 臺灣所在諸部隊ニ於テ經理部下士ノ補充ヲ要スルトキハ部隊長ヨリ臺灣陸軍經理部長ニ請求シ該經理部長其ノ必要ヲ認ムルトキハ臺灣守備混成旅團及要塞砲兵隊ニ係ルモノハ別表ノ區分ニ依リ當該師團經理部長ニ其ノ他ニ係ルモノハ陸軍省經理局長ニ請求スヘシ

第三條 清國及韓國所在諸部隊ニ於テ經理部下士ノ補充ヲ要スルトキハ部隊長ヨリ當該司令官ニ請求シ該司令官其ノ必要ヲ認ムルトキハ當該部隊ニ係ルモノハ陸軍省經理局長ニ其ノ他ノ部隊ニ係ルモノハ其ノ編成ヲ擔任スル師團ノ經理部長ニ請求スヘシ

第四條 陸軍省經理局長前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ適宜師團經理部長ヲ指定シ之ヲテ要員ノ補充ヲ爲サシムヘシ

第五條 師團經理部長經理部下士補充ノ請求ヲ受ケ又ハ陸軍省經理局長ヨリ其ノ要員ノ配當アリタルトキハ其ノ所轄内ヲ通シテ補充ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 臺灣清國及韓國所在諸部隊ニ於テ經理部下士ノ交代ヲ要スルトキハ前諸條ノ例ニ依ルモノトス

(別表)

補充ヲ要スル部隊	補充區分
臺灣守備混成旅團司令部	第一旅團ハ第八師管內諸部隊 第二旅團ハ第四師管內諸部隊
同 歩兵大隊	近衛師團ノ師管內諸部隊
同 騎兵中隊	第一中隊ハ第二師管內諸部隊 第二中隊ハ第三師管內諸部隊
同 砲兵大隊	第一大隊ハ第五師管內諸部隊 第二大隊ハ第六師管內諸部隊
同 工兵中隊	第一中隊ハ第九師管內諸部隊 第二中隊ハ第十師管內諸部隊
要塞砲兵大隊	第一師管內諸部隊 第二師管內諸部隊 第三師管內諸部隊

○陸軍部百十四號

體操教練別冊ノ通定メラル (別冊略ス)

明治三十六年十二月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部百十五號

工科及理科大學陸軍砲工學校員外學生修學規則第十條原料ノ下ニノ實費ヲ加フ

明治三十六年十二月二十三日

陸軍大臣寺內正毅

〔参照〕

陸軍第七號工科及理科大學陸軍砲工學校員外學生修業規則(明治三十三年一月二十九日抄録)
第十條 學生教育上實驗及應用作業等ニ要スル原料ハ砲工學校ヨリ關係大學ニ供給スルモノトス

○陸軍部百十六號

砲兵上等工長ニシテ従前ノ特別俸ヲ受クル者ニハ技術加俸ヲ給セス

明治三十六年十二月二十五日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍部百十七號

明治三十二年陸軍部百三十一號臨時電信部建築工手採用規則ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年十二月二十五日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍部百十八號

陸軍各兵科下士教育教令別冊ノ通定ム

但シ明治三十二年陸軍部百二十八號陸軍各兵科下士上等兵教育教令ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年十二月二十八日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍各兵科下士教育教令

第一章 總則

第一條 本教令ハ軍隊(憲兵及軍樂)ニ於テ施行スヘキ各兵科下士及下士候補者ノ教育ニ關スル大綱ヲ示スモノトス

臺灣守備隊、外國駐衛ノ軍隊及總治隊ニ在テハ情況ノ許ス限リ本教令ヲ準用スヘシ

鼓手長、喇叭長及其候補者並ニ特種ノ技術ヲ專修スルモノニ在テハ本教令ノ教育程度ヲ斟酌シ

其專業ノ修習ニ從事セシムヘシ

第二條 隊附下士ハ兵卒ト起居ヲ共ニシ其性行ヲ詳ニ訓示戒飭之ヲ教導シ躬行實踐之ヲ風化シ以テ其本分ヲ全クセシムルノ責務ヲ有ス

隊附下士ヲシテ能ク其重任ヲ全クセシムルニハ能ク兵卒ノ情態ヲ詳ニ專ラ實地ノ練習ニヨリ其任務ヲ盡スニ必要ナル能力ヲ得セシメ漸次階級ノ進ムニ從ヒ益々精熟ノ域ニ躋ラシメサル可

カラス是レ軍隊ニ於テ下士ヲ養成スルノ本旨ナリ

第三條 下士及下士候補者ノ教育ハ主トシテ軍隊教育順次教令ニ示セル一般教育ト同時ニ施行シ特ニ教育スヘキ必要ナル學術科ニ限リ一般教育ノ餘暇ニ於テ實習セシムヘキモノトス

第四條 中隊長ハ第一條及第三條ノ要旨ニ據リ教育ノ實施ニ任スルモノトス

第五條 隊長(中隊長又ハ副立大尉)ハ本教令ニ於ケル教育ヲ監督シ隨時便宜ノ方法ニ依リ檢閲ヲ施行シ以テ其進歩ヲ促シ兼テ各種教育ノ進歩一致ヲ圖ルモノトス

第二章 下士候補者ノ教育

第六條 下士候補者(伍長勤務上切兵ヲ命)ノ教育ハ軍隊教育順次教令ニ示セル一般ノ教育並ニ諸勤務ニ精通熟達セシメ尙初級下士ノ職務ヲ盡スニ必要ナル能力ヲ具備セシムルニ在リ

第七條 下士候補者ノ教育ハ總テ所屬中隊ニ於テ施行スルモノトス但シ特ニ教育スヘキ課程目ニ限リ隊長便宜ノ方法ヲ設ケテ聯、大隊毎ニ教育セシムルコトヲ得

第八條 特ニ教育ス可キ課程目及其程度ハ附表教育課程表ニ據ルヘシ

第九條 中隊長ハ教育年度末ニ於テ各下士候補者ノ學術科成績並ニ考科列序表ヲ編製シ順序ヲ經テ隊長ニ呈スヘシ

第三章 下士教育

第十條 下士教育ハ伍長勤務上等兵及下士ヲシテ各階級ニ應シ其職務ヲ適實ニ履行セシムル爲メ
筋修ノ學術ヲ練習補習セシメ其應用力ヲ増進シ尙故參者ニ在テハ兼テ上級ノ勤務ニモ習熟セシ
ムルニ在リ

第十一條 部隊ノ指揮又ハ獨立ノ勤務ヲ練習セシムルハ軍隊教育順次教令ニ依リ日常ノ教練及野
外演習等ニ於テ之ヲ訓練スヘシ

第十二條 現地若ハ圖上ニ於テ操典、教範、要務令等ノ講究ヲ積マンメ實際ニ活用スルノ能力ヲ増
進セシムヘシ

第十三條 略圖及報告等ノ調製ハ單簡ナル戰術上ノ任務ヲ與ヘテ練習セシメ之ニ熟達セシムヘシ

第十四條 體操、劍術、距離測量、射擊、馬術其他技術ニ屬スル課業ハ兵科ノ必要ニ應シ特ニ之ヲ練習
セシムヘシ

第十五條 伍長勤務上等兵及下士ノ教育ハ總テ所屬中隊ニ於テ施行スルモノトス但シ隊務ノ便宜
ニヨリ某課目ハ隊長便宜ノ方法ヲ設ケテ聯、大隊毎ニ教育セシムルコトヲ得

第十六條 聯隊及大隊本部附ノ下士ハ其聯、大隊内ノ中隊ニ於テ教育ヲ受ケシムヘシ

第十七條 中隊長ハ教育年度末ニ於テ各下士候補者ノ學術科成績並ニ考科列表ヲ調製シ順序ヲ
經テ隊長ニ呈スヘシ

第十八條 特別教育ノ目的ハ隊附下士ヲシテ特別ノ勤務ニ服シ若ハ滿期後處世ノ便ヲ得セシムル
爲メ必要ナル學識ヲ得セシムルニ在リ

第四章 下士特別教育

第十九條 特別教育ハ勤務及一般教育ヲ妨ケケル限リ在營六箇年以上ノ下士ヲシテ本人ノ希望ニ
依リ修學セシムルモノトス但シ在營六箇年未滿ノ下士ニ在テモ第三章下士教育ノ成績良好ナル
者ハ修學ニ從事セシムルコトヲ得

第二十條 教育スヘキ科目ハ概シ左記ノ標準ニ依リ教育機關ノ許ス程度ニ於テ隊長之ヲ定ムヘシ

一 國語及漢文

二 外國語

三 數學

四 地理及歴史

五 簿記

第二十一條 教育スヘキ科目ノ程度ハ各人ノ素養ヲ參酌シ漸次之ヲ補習セシメ第十八條ノ要旨ニ
應シ得ル如クスヘキモノトス

第二十二條 教官ハ將校及同相當官ヲ選テ隊長之ヲ命スヘシ但シ他ノ適任者ニ教授ノ一部ヲ囑托
スルコトヲ得

第二十三條 隊長ハ第十九條乃至第二十二條ノ規定ニ從ヒ教育ニ關スル方法ヲ定ムヘシ但シ修學
者ノ人圓教育ノ便宜等ニ依リ二隊以上合同シテ教育スルヲ要スルトキハ師(旅)團長之ヲ定ムヘシ

第二十四條 諸官衙學校ニ在テハ本教令ニ準シ下士特別教育ヲ施行シ或ハ附近ノ軍隊ニ依リ修
學セシムルヲ得但シ之カ爲メ特別ノ費用ヲ請求スルコトヲ得ス

附則

下士候補者ニアラズシテ伍長勤務上等兵トナルヘキ見込ノ者ハ適宜下士候補者ト共ニ教育スヘシ
(附表)

下士官候補者教育課程表

科目	歩兵	騎兵	野戰砲兵	要塞砲兵	工兵	輜重兵	教育程度
一	操典 銃典 野外要務 令	操典 銃典 野外要務 令	操典 銃典 野外要務 令	操典 銃典 野外要務 令	操典 銃典 野外要務 令	操典 銃典 野外要務 令	一 操典 野外要務令ハ階級ニ應シ各種勤務ヲ執行スルニ必要ナル程度ニ達セムヘシ
二	馬學 砲兵教範 測測法 令	馬學 砲兵教範 測測法 令	馬學 砲兵教範 測測法 令	馬學 砲兵教範 測測法 令	馬學 砲兵教範 測測法 令	馬學 砲兵教範 測測法 令	二 馬學及砲兵 輜重兵須知ノ事項ハ各其教科書ニ依リ前項ノ程度ニ達セムヘシ
三	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	三 測測法ハ教科書ニ依リ測測ノ要領地圖ノ讀力及算術法ヲ授ケ且フ歩測若ハ目算ニ依リ距離ナル小地區ノ測測ヲ爲スコトヲ教ニヘシ但シ工兵ニ在テハ測板測測ノ一部ヲ教ニヘシ
四	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	四 數學ハ歩 騎兵及輜重兵ニ在テハ教科書上卷ノ全部ヲ授ケ砲兵工兵ニ在テハ教科書全部ニ就テ所要ノ程度ヲ加シ修習セムヘシ
五	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	軍人衛生 算術 砲兵教範 測測法 令	五 圖(圖畫)學及軍人衛生學ハ概テ教科書ノ全部ニ通セムヘシ
備	<p>一 水袋所積ノ科目ノ外兵科ニ依リ必要ノ程度ヲ願フ兵科材料ノ保存法火工術ノ大要及他兵科ノ範圍中必要ノ事項ヲモ教授ニヘシ又要塞砲兵乙大隊ニ在テハ馬學ヲ加フルモノトス</p> <p>二 鐵道大隊ニ在テハ本表工兵ノ課程ヲ適宜省略シ其部門ノ課程ヲ修メシムルモノトス</p> <p>三 下士官候補者普通學ノ課程ヲ省略シ必要ニ應シ水袋積ヲ教授スルノ傍リ軍用ナル履服及地帯等ヲ教授スルモノトス</p>						

陸軍省百十九號

四輪輜重車制式中別紙圖面ノ通改正ニ共ノ輓具ヲ二輪輜重車用輓具ト同一ノモノニ改ム (別紙略ス)

但シ既製ノ分ハ漸次修正ス

明治三十六年十二月二十八日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍省百二十號

兵器取扱規則中左ノ通改正ス (表中改正略ス)

明治三十六年十二月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

海軍省百五十四號

自今軍艦機關部ニ使用スル管及錐ノ寸法別表ノ通定ム (別表略ス)

但シ關連艦及水管艦用管及錐ノ寸法ハ追テ發布ス

明治三十六年十二月四日

海軍大臣野村浩平

海軍省百五十五號

英國ニ於テ製造シ清國上海ニ於テ組立タル第三號淺噴水砲艦ヲ賜田ト命名セラル

明治三十六年十二月五日

海軍大臣野村浩平

海軍省百五十六號

軍艦賜田ノ信號符字左ノ通續付ス

明治三十六年十二月五日

海軍大臣野村浩平

G. Q. M. P. 賜田

○海軍省通第五百五十七號

軍艦及水雷艦類別等級別表中砲艦二等ノ欄内ニ隅田ヲ加フ

明治三十六年十二月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第五百五十八號

海軍省處務規程中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第七條中各局ノ上ニ「大臣官房」ヲ加フ

第四十條中海總號ヲ「官房號」ニ、海總機密號ヲ「官房機密號」ニ改ム

第四十三條中海總號摺物業ヲ「官房號摺物業」ニ改ム

本規程中「總務長官」ヲ「次官」ニ、「總務局」ヲ「大臣官房」ニ改ム

○海軍省通第五百五十九號

海軍大學校規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條 校長ハ學期ノ終ニ於テ學生ノ卒業成績ヲ考查シ學業考課表ヲ添ヘ海軍教育本部長ニ進達ス

第三條 校長ハ毎年一月以後十二月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ翌年一月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達ス

第四條 ノ二 海軍教育本部長臨時講習科ヲ設クルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍共ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申ス

講習員ノ召集ハ海軍大臣之ヲ告進ス

講習員トキハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告ス

第八條 機關科甲種學生採用ノ告進アリタルトキ各其ノ學生ヲランコトヲ志願スル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出ス

第八條 ノ二 機關科乙種學生採用ノ告進アリタルトキ所轄長ハ學生志願者中海軍大學校條例第十七條ノ二ニ該當スヘシト認メタル者アルトキハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ出サシメ所轄長及

所轄長官ハ各意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達ス

第十四條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス但シ校長ハ職務ノ都合ニ依リ教育本部長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ多少伸縮變更スルコトヲ得

第十五條 海軍大學校學生ノ修業期ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアル

一 將校科甲種學生 一箇年

二 將校科乙種學生 一箇年

三 選科學生 凡一箇年

四 機關科甲種學生 一箇年

五 機關科乙種學生 一箇年四箇月

〔參照〕

海軍省通第六十六號海軍大學校規則明治三十二年三月三十一日抄録

第二條 校長ハ學年ノ終ニ於テ學生ノ試驗成績ヲ考査シ學業考課表ヲ繕ヘ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
 第三條 校長ハ學年ノ終ニ於テ各階級ノ開キ既往學術ノ進歩及將來教科ノ改良ニ就テ考査シ學事報告ヲ作り海軍教育本部長ニ進達スヘシ
 第八條 機關科長期及短期學生採用ノ普通アリタルトキ 所屬長ハ學生志願者中海軍大學校條例第十七條第一ニ時當スヘシト認メタル者アルトキハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ出シシメ 所屬長及所管長官ハ各意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
 第十四條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテ夏休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテ冬休業トス
 第十五條 海軍大學校學生ノ修學期ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ
 一 將校科甲種學生 二箇年
 二 將校科乙種學生 一箇年
 三 選科學生 凡一箇年
 四 機關科長期學生 二箇年
 五 機關科短期學生 一箇年
 前項ノ將校科甲種學生ニシテ採用セラレタル年若ハ其ノ前年ニ將校科乙種學生收得卒業ノ者ハ其ノ修學期ヲ一箇年ニマテ減縮スルコトヲ得此場合ニ在テハ校長ハ海軍教育本部長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スルモノトス

○海軍省第百六十號

海軍軍醫學校規則中左ノ條改正ス

明治三十六年十二月七日

海軍大臣 岡村 松平

第二條中「及講習生ヲ削リ試驗成績ノ下ニ及研究成績ヲ加フ」
 第六條ヲ第五條トシ第六條ヲ左ノ如ク改ム
 第六條 校長ハ選科學生ノ研究學科ニ就キ其ノ指導者ヲ指定スヘシ
 第七條中海軍大臣ニ上申スル海軍省醫務局長ニ報告ニ改ム
 第八條中第一項ヲ「學年ハ軍醫學生及選科學生ニ在テハ毎年一月十日ニ始マリ練習學生ニ在テハ

入接ノ日ヲ以テ其ノ開始トスニ改メ第二項中七月二十一日ヨリ九月十日ヲ八月一日ヨリ同月三十一日ニ改メ冬休業トスノ下ニ但シ校長ハ職務ノ都合ニ依リ醫務局長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ多少伸縮變更スルコトヲ得ヲ加フ
 第八條ノ二 軍醫學生及選科學生ノ修學期ハ各一箇年トス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ
 軍醫タル練習學生ノ修學期ハ約半年トス候補生タル練習學生ノ修學期ハ海軍少軍醫候補生實務練習規則及海軍少藥劑士候補生實務練習規則ニ依ル

第九條 軍醫學生ハ十五名以内選科學生ハ五名以内トス
 第十條中第十一條及第十二條ヲ第十二條及第十四條ニ改メ「選擇シ」ノ下ニ「毎年十一月十五日マテニテ」ヲ加フ

第十一條 選科學生ハ學期ノ終ニ於テ自己ノ研究セシ學科ニ就キ研究成績ヲ記述シ之ヲ校長ニ提出スヘシ
 校長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ海軍省醫務局長ニ進達スヘシ

第十二條 軍醫學生及選科學生ハ通學トシ練習學生ハ校内ニ寄宿セシム
 第十三條 學生ノ學用品ハ自辨トス但シ授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第十四條 海軍省醫務局長臨時講習科ヲ設クルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍講習ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ
 講習員ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告達ス

講習終リタルトキハ校長之ヲ海軍省醫務局長ニ報告スヘシ

〔參照〕

- 海軍省第百九十二號海軍軍醫學校規則(明治三十二年五月十六日)抄録
- 第二條 校長ハ毎學年ノ終ニ於テ學生及職員ノ成績成績ヲ考査シ之ニ意見ヲ附シテ海軍省醫務局長ニ進達スヘシ
- 第七條 校長ハ被服檢査等ノ衛生試驗ニ關スル事項ヲ調査シ其ノ成績ヲ海軍大臣ニ上申スヘシ
- 第八條 學年ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス
- 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテ夏期休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテ冬期休業トス
- 第九條 學生ハ海軍少軍醫候補生ヲ除キ十五名以内トス
- 第十條 醫學學生ヲラント志願スルモノハ海軍軍醫學校條例第十一條及第十二條ニ據リ入學後研究セントスル學科ヲ選擇シ順序ヲ經テ願得テ海軍大臣ニ差出スヘシ 海軍大臣ハ海軍省醫務局長ヲシテ志願者ノ學識性行ニ鑑ミ其ノ所志ヲ遂行シ得ヘキモノタルヤ否ヤヲ察見セシム
- 第十一條 學生ノ學用品ハ自辦トス但シ授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

○海軍省第百六十一號

海軍砲術練習所規則左ノ通改正ス

明治三十六年十二月七日

海軍大臣 野澤山本 權兵衛

海軍砲術練習所規則

- 第一條 所長ハ海軍砲術練習所條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第二條 海軍砲術練習所ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス
- 第三條 海軍砲術練習所職員ハ所内(聘任文官)ニ起臥スルモノトス
- 第四條 所長ハ學期ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ砲術教授ノ成績及進歩並練習生ノ技能品行ヲ考査シ之ヲ砲術進歩録ニ記註スヘシ

第五條 所長ハ卒業成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第六條 所長ハ學生(士官以上)ノ卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ク

第七條 所長ハ海軍大學校條例第二十三條ニ依リ海軍大學校學生實地研究ノ爲本所ニ修學スル者アリタルトキハ其ノ研究ヲ終リタル後成績ヲ海軍大學校長ニ報告スヘシ

第八條 所長ハ前年十二月一日以後其ノ年十一月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ十二月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第九條 海軍佐官ノ砲術練習ハ其ノ志願ニ依ル

海軍尉官及造兵技士ノ練習ハ海軍大臣之ヲ命ス

海軍兵曹長及上等兵曹ノ練習ハ海軍大臣之ヲ命スルノ外其ノ志願ニ依ル

第十條 練習生ニ依リ練習ヲ志願セントスル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ

掌砲兵ト爲スヘキ練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ前項ノ旨進ニ基キ便宜採用人員及入

所期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部(當該鎮守府在籍下士卒ノ勤務スルモノニ)ノ

長ヲシテ海軍砲術練習所條例第十六條ニ適合スル者ヲ選拔シ其ノ人員ヲ具申セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ人員ヲ定メ入所期限ト共ニ之ヲ艦團共ノ他各部

ノ長ニ進ス艦團共ノ他各部ノ長ハ更ニ選拔ヲ行ヒ採用スヘキモノヲ決定シ所見表(別表)ヲ添ヘ

テ之ヲ所長ニ通知シ期日以内ニ入所セシムヘシ
砲術教員ト爲スヘキ練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ其ノ候補者選出期限ヲ定メテ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ海軍砲術練習所條例第十七條ニ適合スル者ヲ選拔シ所見表別表ヲ添へ選出期限内ニ所長ニ通知セシム所長ハ告達人員以内ニ於テ更ニ選拔ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

海軍教育本部長ハ前項ノ報告ニ依リ入所期限ヲ定メテ之ヲ鎮守府司令長官ニ通知スヘシ
鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ期日以内ニ入所セシムヘシ
所長ハ砲術教員ト爲スヘキ練習生ニ採用セサル者ノ所見表ヲ艦團其ノ他各部ノ長ニ返附シ艦團其ノ他各部ノ長ハ服役期限ノ誓約ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ誓約ヲ解除スヘシ

第十一條 砲術練習所學生、練習生、商船學校學生及臨時講習科ヲ履修スル者入所シタルトキハ所長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十二條 艦砲射撃ノ成績不良ナル者ニハ再發射ヲ爲サシムルコトヲ得但シ掌砲兵ト爲スヘキ練習生ニシテ再發射ヲ爲シ及第セル者ニハ二等掌砲證書ヲ授與ス

第十三條 練習生ニシテ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免シ各共ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ復歸セシメ且之ヲ各共ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十四條 練習生ニシテ艦砲射撃ニ落第シタルトキ又ハ砲術教員若ハ掌砲兵タルニ適セスト認メ

タルトキハ所長之ヲ免シ各共ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十五條 練習生卒業シタルトキハ各共ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘシ

第十六條 本則第十四條第十五條ニ依リ前所屬艦ニ復歸セシムルニ當リ該艦遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ其ノ所在不定ナルトキハ各共ノ在籍鎮守府海兵團ニ復歸セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ其ノ前所屬艦長ニ通知スヘシ

第十七條 本則第十三條乃至第十六條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘキモノニシテ事故アリ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時横須賀海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各共ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第十八條 海軍砲術練習所條例第二十四條若ハ第二十五條ニ適合スト認メタル者アルトキハ所轄長ハ所見表(別表)ヲ添へ其ノ人名ヲ所長ニ通知スヘシ但シ同條例第二十五條ノ場合ニ在テハ其ノ證書證狀ノ有效滿期ノ時ヨリ六箇月以前ニ通知スルヲ要ス

所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ時期ヲ定メ試験問題ヲ密封シ各所轄長ニ送附ス所轄長ハ試験ヲ行ヒ其ノ答解書(實地作業ニ在テハ其ノ所見表ニ送附ス所長ハ之ヲ調査シ其ノ成績ト所見表トニ依リ檢定ノ上砲術教員適任證書及一等掌砲證書若ハ掌砲證書ヲ授與スヘシ但シ試験ハ各地同日ニ行フヘキモノニシテ其ノ日限ハ試験問題ノ封筒ニ記スルモノトス若シ特別ノ事情ニ依リ其ノ期日ニ於テ試験ヲ行フ能ハサルトキハ所轄長ハ試験問題滿洩ノ虞ナキ限ハ其ノ期日ニ係ラス試験ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ其ノ事情ヲ所長ニ通知スヘシ
所長ハ前項ニ依リ更ニ證書證狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ所轄長ハ

○海軍省第六十二號
海軍水雷術練習所規則左ノ通改正ス

明治三十六年十二月七日

海軍大臣 野山木權兵衛

海軍水雷術練習所規則

- 第一條 所長ハ海軍水雷術練習所條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第二條 海軍水雷術練習所ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス
- 第三條 海軍水雷術練習所ノ職員ハ所内(判任文官)ニ起ルモノトス
- 第四條 所長ハ學期ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ水雷術教授ノ成績及進歩並練習生ノ技能品行ヲ考査シ之ヲ水雷術進歩録ニ記註スヘシ
- 第五條 所長ハ卒業成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
- 第六條 所長ハ學生(士官以上)ノ卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 所長ハ海軍大學校條例第二十三條ニ依リ海軍大學校學生實地研究ノ爲本所ニ修學スル者アリタルトキハ其ノ研究ヲ終リタル後成績ヲ海軍大學校長ニ報告スヘシ
- 第八條 所長ハ前年十二月一日以後其ノ年十一月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ十二月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
- 第九條 海軍佐官ノ水雷術練習ハ其ノ志願ニ依ル
- 海軍尉官機關士及砲兵技士ノ練習ハ海軍大臣之ヲ命ス
- 海軍兵曹長機關兵曹長上等兵曹及上等機關兵曹ノ練習ハ海軍大臣之ヲ命スルノ外其ノ志願ニ依リ
- 第一項及第三項ニ依リ練習ヲ志願セントスル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ提出スヘシ

第十條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ鎮守府毎ニ區分シテ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告過ス

練習生(水雷術教員ト爲スヘキ者ヲ除ク)ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ前項ノ告達ニ基キ便宜採用人員及入所期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部ノ長ヲシテ海軍水雷術練習所條例第十七條ノ長ヲシテ海軍水雷術練習所條例第十六條ニ適合スル者ヲ選抜シ其ノ人員ヲ具申セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ人員ヲ定メ入所期限ト共ニ之ヲ艦團共ノ他各部ノ長ニ進メ艦團共ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表(別表)ヲ添ヘ之ヲ所長ニ通知シ期日以内ニ入所セシムヘシ

水雷術教員ト爲スヘキ練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ其ノ候補者選出期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部ノ長ヲシテ海軍水雷術練習所條例第十七條ニ適合スル者ヲ選抜シ所見表(別表)ヲ添ヘ選出期限内ニ所長ニ通知セシム所長ハ告過人員以内ニ於テ更ニ選抜ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

海軍教育本部長ハ前項ノ報告ニ依リ入所期限ヲ定メ之ヲ鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部ノ長ヲシテ期日以内ニ入所セシムヘシ

所長ハ水雷術教員ト爲スヘキ練習生ニ採用セサル者ノ所見表ヲ艦團共ノ他各部ノ長ニ返附シ艦團共ノ他各部ノ長ハ服役期限ノ誓約ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ誓約ヲ解除スヘシ

第十一條 水雷術練習所學生、練習生及臨時講習科ヲ履修スル者入所シタルトキハ所長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十二條 練習生ニシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免シ各共ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ復歸セシメ且之ヲ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十三條 練習生ニシテ水雷術教員、掌水雷兵、水雷工ノ練習ヲ爲ス者タルニ適セスト認メタルトキハ所長之ヲ免シ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復歸セシメ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十四條 練習生卒業シタルトキハ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復歸セシムヘシ

第十五條 本則第十三條第十四條ニ依リ前所屬艦ニ復歸セシムルニ當リ該艦遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ共ノ所在不定ナルトキハ各共ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ復歸セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ共ノ前所屬艦長ニ通知スヘシ

第十六條 本則第十二條乃至第十五條ニ依リ艦團其他各部ニ復歸セシムヘキモノニシテ事故アリ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時當須賀海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此場合ニ在テハ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第十七條 海軍水雷術練習所條例第二十四條若ハ第二十五條ニ適合スト認メタル者アルトキハ所長ハ所見表(別表)ヲ添ヘ共ノ人名ヲ所長ニ通知スヘシ但シ同條例第二十五條ノ場合ニ於テハ共ノ證書證狀ノ有效満期ノ時ヨリ六箇月以前ニ通知スルヲ要ス

所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ時期ヲ定メ試験問題ヲ密封シ各所轄長ニ送附ス所轄長ハ試験ヲ行ヒ共ノ答解書(實地作業ニ在テハ共)ヲ所長ニ送附ス所長ハ之ヲ調査シ共ノ成績ト所見表トニ依リ檢定ノ上水雷術教員適任證書及一等掌水雷證狀、掌水雷證狀若ハ水雷工證狀ヲ授與スヘシ但シ試験ハ各地同日ニ行フヘキモノニシテ共ノ日限ハ試験問題ノ封筒ニ記スルモノトス若シ特別ノ事情ニ依リ共ノ期日ニ於テ試験ヲ行フ能ハサルトキハ所轄長ハ試験問題漏洩ノ虞ナキ限ハ共

ノ期日ニ係ラス試験ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ共ノ事情ヲ所長ニ通知スヘシ

所長ハ前項ニ依リ更ニ證書證狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

所轄長ハ航海等ノ爲メ本條ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ在テハ共ノ手續ヲ終ル迄證書證狀ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第十八條 所轄長海軍水雷術練習所條例第二十八條第一號第二號ニ依リ證書證狀ヲ授與スルニハ所管長官ノ認可ヲ經ヘシ

所轄長海軍水雷術練習所條例第二十八條ニ依リ證書證狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ海軍水雷術練習所長ニ通知シ所長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第十九條 海軍教育本部長臨時講習科ヲ設クルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍共ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

海軍大臣ハ講習員ノ員數ヲ鎮守府、要港部及常備艦隊等ニ區別シ入所期日ト共ニ之ヲ告達ス

鎮守府司令長官、常備艦隊司令長官、要港部司令官及共ノ他ノ所管長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ講習員ヲ選抜シ期日マテニ入所セシムヘシ但シ下士卒ハ所轄長ヲシテ選抜セシムルヲ例トス

第二十條 水雷術練習所學生ハ通學若ハ所内ニ起臥セシメ練習生ハ所内ニ起臥セシム

臨時講習科ヲ履修スル者ハ通學若ハ所内ニ起臥セシム

第二十一條 練習生ノ在所人員ハ三百名以内トス

第二十二條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス但シ所長ハ放務ノ都合ニ依リ教育本部長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ多少伸縮變更スルコトヲ得

(別表)

練習生(機關術教員及船匠術教員ト爲スヘキ者ヲ除ク)ヲ採用スルニハ海軍教育本部長前項ノ告
達ニ基キ便宜入所人員及採用期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ
鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部(當該鎮守府在轄下士卒ノ勤務スルモノニ在
リテハ其ノ所管ノ如何ヲ問ハス以下條之
ノ長ヲシテ海軍機關術練習所條例第十五條第十六條若ハ第十八條ニ適合スル者ヲ選拔シ其ノ人
員ヲ具申セシムヘシ
鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ人員ヲ定メ入所期日ト共ニ之ヲ艦團共ノ他各部
ノ長ニ達ス艦團共ノ他各部ノ長ハ更ニ選拔ヲ行ヒ採用スヘキモノヲ決定シ所見表(別表)ヲ添ヘ
之ヲ所長ニ通知シ期日以内ニ入所セシムヘシ
機關術教員及船匠術教員ト爲スヘキ練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ其ノ候補者選出期
限ヲ定メテ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ
鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部ノ長ヲシテ海軍機關術練習所條例第十七條
及第十九條ニ適合スルモノヲ選拔シ所見表(別表)ヲ添ヘ選出期限内ニ所長ニ通知セシム所長ハ
皆適人員以内ニ於テ更ニ選拔ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ
海軍教育本部長ハ前項ノ報告ニ依リ入所期限ヲ定メテ之ヲ鎮守府司令長官ニ通知スヘシ
鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部ノ長ヲシテ期日以内ニ入所セシムヘシ
所長ハ機關術教員若ハ船匠術教員ト爲スヘキ練習生ニ採用セサル者ノ所見表ヲ艦團共ノ他各部
ノ長ニ返附シ艦團共ノ他各部ノ長ハ服役期限ノ誓約ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ誓約ヲ解除スヘシ
第十條 機關術練習所學生、練習生及臨時講習科ヲ履修スル者入所シタルトキハ所長ハ之ヲ海軍
教育本部長ニ報告スヘシ
第十一條 機關工術專科ノ實修ヲ爲スヘキ練習生入所シタルトキハ所長ハ所要ニ從ヒ所見表ニ鑑

ニ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ各自ニ機械工業、製罐工業、鍛冶工業及銃砲工業中一業ノ實修ヲ
命スヘシ
第十二條 練習生ニシテ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免シ各共ノ在
籍鎮守府ノ海兵團ニ復帰セシメ且之ヲ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育本
部長ニ報告スヘシ
第十三條 練習生ニシテ機關術教員機關工術專科實修ノ練習生、掌機兵、船匠術教員若ハ船匠工
タルニ達セスト認メタルトキハ所長之ヲ免シ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復帰セシメ海軍教
育本部長ニ報告スヘシ
第十四條 練習生ニシテ卒業シタルトキハ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復帰セシムヘシ
第十五條 本則第十三條第十四條ニ依リ前所屬艦ニ復帰セシムルニ當リ該艦遠隔ノ地ニ在ルカ或
ハ其ノ所在不定ナルトキハ各共ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ復帰セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ之ヲ其ノ前所屬艦長ニ通知スヘシ
第十六條 本則第十二條乃至第十五條ニ依リ艦團共ノ他各部ニ復帰セシムヘキモノニシテ事故ア
リ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時擴張復海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ之ヲ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ
第十七條 海軍機關術練習所條例第二十七條若ハ第二十八條ニ適合スト認メタル者アルトキハ所
長ハ所見表ヲ添ヘ其ノ人名ヲ所長ニ通知スヘシ但シ同條例第二十八條ノ場合ニ在リテハ其ノ
證書有效滿期ノ時ヨリ六箇月以前ニ通知スルヲ要ス
所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ試驗ノ時期問題又ハ方法ヲ定メ所長長ニ通知ス所長長ハ試
驗ヲ行ヒ其ノ答解書(實地作業ニ在リテハ其ノ圖)ヲ所長ニ送附ス所長ハ其ノ成績ト所見表トニ

第三號書式

第 號
及 第 證書
海軍兵學校(海軍機關學校)生徒
氏 名
海軍兵學校海軍機關學校(第何學年大試驗及第何證書)
年月日
海軍兵學校(海軍機關學校)長官位勳功爵氏名 [印]

第四號書式

第 號
卒業證書
海軍砲(水雷)(機關)術練習所學生
(商船學校學生)
官 氏 名
海軍砲(水雷)(機關)術練習所學生(海軍砲術練習所商
船學校學生)教習卒業證書
年月日
海軍砲術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第五號書式

第 號
適任證書
官(職)氏 名
砲術(水雷術)(機關術)(船匠術)(軍樂)教員ニ適任ナル
ヲ證書
年月日
海軍砲術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第六號書式

第 號
海軍砲(水雷)(機關)術練習所(練習生)教習(水雷工教
習)(軍樂兵教習)(船匠工教習)卒業證書
年月日
海軍砲術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第七號書式

第 號
專科證書
官(職)氏 名
海軍機關術練習所機關工術專科教習(工本業)證書
年月日
海軍機關術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第八號書式

第 號
修業證書
官(職)氏 名
海軍高等信託練習生教習修業證書
年月日
海軍兵團長官位勳功爵氏名 [印]

第九號書式

第 號
適任證書 何等
官(職)氏 名
借就兵ニ適任ナルヲ證書
年月日
某海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

第十號書式

第 號
卒業證書
官(職)氏 名
海軍砲術(普通)科練習生教習卒業證書
年月日
海軍兵團長官位勳功爵氏名 [印]

第十一號書式

第 號
卒業證書
海軍軍醫學校學生
官 氏 名
海軍軍醫學校軍醫(練習)學生教習卒業ノ證書
年 月 日
海軍軍醫學校長官位勳功尉氏名

第十二號書式

第 號
發給證書
何等
官(職)氏 名
海軍軍醫學校軍醫(練習)學生教習卒業ノ證書
年 月 日
海軍軍醫學校長官位勳功尉氏名

第十三號書式

第 號
修業證書
官(職)氏 名
海軍看護醫學校所之練習生教習修業ノ證書
年 月 日
海軍病院看護醫學校所長官位勳功尉氏名

第十四號書式

第 號
卒業證書
海軍主計官練習所學生
官 氏 名
海軍主計官練習所主計官(少主計候補生)學生教習卒業
ノ證書
年 月 日
海軍主計官練習所長官位勳功尉氏名

第十五號書式

第 號
修業證書
官 氏 名
海軍主計官練習所練習生教習修業ノ證書
年 月 日
海軍主計官練習所長官位勳功尉氏名

第十六號書式

第 號
卒業證書
何等(甲)(乙)
練習船工
氏 名
海軍造船工練習所造船科(造船科)教習卒業ノ證書
年 月 日
海軍造船工練習所長官位勳功尉氏名

○海軍省令第六十六號

下士教員資格ニ關スル規定第一號中「一等船匠工證書ヲ」船匠術教員適任證書ニ改メ「二等兵器工證書」ヲ削リ同第二號中「二等船匠工證書」ヲ「船匠工證書」ニ機關工證書ヲ「機關工術科證書」ニ改メ「二等兵器工證書」ヲ削リ

明治三十六年十一月七日

○海軍省令第六十七號

海軍軍人俸給加係支給細則中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月七日

第八條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

主計官練習所	造船工練習所	機關術練習所	平醫學校	機關學校	兵學學校	火學學校	造兵廠	東京軍法會議	水陸部	軍令部	教育本部	艦政本部	臨時建築部	司法局
高等官	高等官			高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	
所長	所長			部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	
判任官	判任官			判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	
官	官			官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	
副官	副官			副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	
主	主			主	主	主	主	主	主	主	主	主	主	
幹	幹			幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	

海軍省	東宮武官	侍從武官	探長所	修理工場	望遠鏡	監獄	病院	製薬廠	工務	軍法會議	經理部	府守監	下宿火藥製造所
高等官			高等官					高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官
所長			所長					部長	部長	部長	部長	部長	部長
判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官
主	主	主	主	主	主	主	主	主	主	主	主	主	主
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹

職	名	備考
一	造船監督官	造船監督官(監督長)ナキトキハ艦政本部長之ヲ調製シ造船監督官トシテ之ヲ代理ス
二	水長	水長ニ補シテ之ヲ代理スハ其ノ代理者ナキトキハ所定調製官ノ代理ヲナストキ其ノ代理者モ亦同シ但シ直屬長官海軍大臣ナルトキハ次官之ヲ調製ス
三	水長ニ補シテ之ヲ代理ス	水長ニ補シテ之ヲ代理スハ其ノ代理者ナキトキハ所定調製官ノ代理ヲナストキ其ノ代理者モ亦同シ但シ直屬長官海軍大臣ナルトキハ次官之ヲ調製ス
四	考課表ハ高層官ニテラサレハ之ヲ調製ス	考課表ハ高層官ニテラサレハ之ヲ調製ス

○海軍省令第七十二號
艦艇及水雷敷設隊現狀報告規則中左ノ通改正ス (改正略ス)

但報告用紙現在ノ分ハ訂正ノ上使用スヘシ

明治三十六年十二月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省令第七十三號

海軍少藥劑士候補生實務練習規則左ノ通改正ス

明治三十六年十二月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍少藥劑士候補生實務練習規則

第一條 海軍少藥劑士候補生ニハ一箇年以上海軍軍醫學校及海軍病院ニ於テ特ニ海軍藥劑官タルニ必要ナル學科及實務ヲ練習セシム

第二條 練習期ヲ分テ前後ノ二期トナシ前期約六箇月間ハ海軍軍醫學校ニ於テ後期約六箇月間ハ海軍病院ニ於テ練習セシム

第三條 前期中ハ海軍軍醫學校ノ教程ニ依リ後期中ハ左ノ科目ニ依リ練習セシム

一 治療品ノ検査法

二 衛生試驗法

三 藥室ノ事務

四 試驗所ノ事務

五 藥品庫ノ事務

第四條 海軍軍醫學校長ハ海軍少藥劑士候補生卒業シタルトキハ卒業試驗成績表ヲ勤務報告ニ添ヘ海軍病院長ニ送附スヘシ

第五條 海軍病院長ハ藥劑官ヲ實務練習ノ指導者トナシ練習期ノ終末ニ試驗ヲ行ハシメ其ノ成績表及海軍軍醫學校長ヨリ送附セル書類ヲ勤務報告ニ添ヘ所屬長官ニ出シ所屬長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 海軍少藥劑士候補生海軍軍醫學校ニ於テ行フ卒業試驗若ハ海軍病院ニ於テ行フ試驗ニ落第シタルトキハ二箇月以内其ノ落第シタル科目ノ復習ヲ爲サシメ再試驗ヲ行フヘシ

試驗ニ際シ傷痍疾病ノ爲メ受験シ得サルモノアルトキハ治癒ノ後試驗ヲ行フコトヲ得

第七條 海軍病院ニ於テ行フ試驗ニ及第シタルモノハ本官ニ任用セララル、マテノ間同院ニ於テ藥劑官ノ業務ヲ實習セシム

○海軍省令第七十四號

海軍艦隊下士卒教育規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十九條 表中六行上段機關工術及兵器工術ヲ削除ス
第三十七條 表中機關工助手ヲ變成スヘキ基本部ノ欄及同條第一號中「機關工助手ニ在テハ機關工
定員ノ三分ノ一以內ヲ削除ス

別表第二備考第三號中「機關工兵器工ヲ削リ「掌水雷兵」ノ次ニ「掌機兵」ヲ加フ
別表第四中「機關工助手教程」ノ欄同備考第三號中「機關工別表第七中「機關工助手及第四番式電機
關工」ヲ削リ「モ」ヲ削除ス

○海軍省通達第七十五號
明治二十四年通達第七號ヲ廢ス

明治三十六年十二月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治二十四年十一月廿日海軍省通達第七號ハ出納官吏及物品會計官吏事務引續ノトキ經理局長ニ通知ノ件ナリ

○海軍省通達第七十六號

明治三十一年四月通達第五十九號海軍軍醫官服務規則中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十六年十二月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通達第七十七號
海軍工廠處務細則中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條 第八號中「進水前」ヲ削リ「保管」ヲ「保護」ニ改メ
第七條 第八號中「保管」ヲ「保護」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ
九 進水後ノ未成艦船及附屬物ノ保管ニ關スルコト

第八條 第八號中「進水前」ヲ削リ「保管」ヲ「保護」ニ改メ

第十條 廠裝委員ハ廠長ノ命ヲ受テ検査官及各部長ト協議シテ艦船ノ廠裝兵裝ニ關スルコトヲ掌ル

〔參照〕

海軍省通達第七十二號海軍工廠處務細則(明治三十六年十一月十日)抄録

第二條 遊兵部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

八 進水前ノ未成艦ニ關シテアル兵器ヲ保管スルコト

第七條 遊船部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

八 進水前ノ未成艦船ノ船體ノ保管ニ關スルコト

第八條 遊船部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

八 進水前ノ未成艦船ニ關シテ保管ニ關スルコト

○海軍省通達第七十八號
海軍望樓規則中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條 海軍望樓ニ於テ内外國ノ軍艦及水雷艦若ハ西洋形船舶ノ通過スルヲ認メタルトキハ外國
軍艦及水雷艦ニ在テハ其ノ艦名(艦艇名)艦艇名ヲ知ル能ハサルトキハ所屬國籍ヲ領守府望樓監督官
若ハ要港部參謀長ニ電報シ内國軍艦水雷艦並西洋形船舶ニ在テハ之ヲ日誌ニ記入スヘシ但シ小
形定期航船ハ此ノ限ニアラズ

〔參照〕

海軍省通達第七十七號海軍望樓規則(明治三十三年九月一日)抄録

第二條 海軍望樓ニ於テ内外國ノ軍艦及水雷艦若ハ西洋形船舶ノ通過スルヲ認メタルトキハ軍艦及水雷艦ニ在テハ之ヲ其
ノ限ニアラズ

○海軍省達第百七十九號
艦隊部隊金繰出納規程第十九條中第二項ヲ削除ス

明治三十六年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第百三十三號艦隊部隊金繰出納規程(明治二十七年三月十五日)抄録
第十九條第二項
軍事費機動費ノ保管出納ニ關シテハ當該艦隊主計長所轄ノ職務ヲ行フ可シ

○海軍省達第百八十號

明治三十年達第百三十五號鎮守府會計監督規程第十條但書ヲ削除ス

明治三十六年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第百三十五號鎮守府會計監督規程(明治三十年十月十四日)抄録
第十條 經理部長ハ艦隊軍港内ニ在テ業務ヲ解カレタルトキ若クハ三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ其ノ發給書及附添役ニ於テ會計ノ實況ヲ検査スヘシ但艦隊所屬艦船ニシテ艦隊主計長其ノ地ニ在ルトキハ本條ノ検査ヲ要セス

○海軍省達第百八十一號

軍事費機動費取扱規程左ノ通改正ス

明治三十六年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

軍事費機動費取扱規程

第一條 機動費ハ特別ノ命令ニ依ルノ外常備艦隊司令長官其ノ麾下艦船ヲ分遣スルニ當リ該艦船經費ノ缺乏ニシタルトキ又ハ經費ノ受領ヲ待ツ能ハサルトキ一時繰替支辨ニ充テシムル爲前渡スルモノトス

第二條 機動費ハ常備艦隊司令長官旗艦ノ主計長ヲ現金前渡官吏トス

第三條 艦船主計長ニ於テ經費ヲ受領セントスルニ當リ第一條ノ場合ニ在テハ當該艦船經費ノ仕拂命令官ニ宛タル經費要求書及規定ノ領收證ヲ添ヘ機動費現金前渡官吏ニ請求スヘシ

第四條 機動費現金前渡官吏前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ保管ノ現金ヲ繰替交付シ第一號書式ノ證書ヲ發スヘシ

第五條 艦船主計長ニ於テ前條ニ依リ繰替交付ヲ受ケタル金額ハ別ニ繰替受入ノ手續ヲ爲スヲ要セス直ニ當該艦船經費ノ仕拂命令官ヨリ經費ノ前渡ヲ受ケタルモノトシテ記帳整理スヘシ

第六條 機動費現金前渡官吏第四條ニ依リ繰替交付シタルトキハ艦船主計長ヨリ提出シタル經費要求書及規定ノ領收證ヲ當該艦船經費ノ仕拂命令官ニ送付シ現金ノ戻入ヲ請求スヘシ

第七條 仕拂命令官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ當該艦船經費ノ前渡仕拂命令ヲ發シ之ヲ機動費前渡官吏ニ送付シ戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 前條仕拂命令ノ日ニシテ艦船主計長ノ繰替交付ヲ受ケタル日ト月ヲ異ニスルトキハ仕拂命令官ハ支出計算書中現金前渡仕拂命令濟額ノ當該欄備考ニ其ノ事由ヲ記載シ證明スルモノトス

第九條 機動費現金前渡官吏ニ於テ會計検査院ニ證明ノ爲提出スヘキ計算書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スルモノトス

(書式略ス)

○會計検査院達第四號

明治三十二年會計検査院達第四號中電信線並電話線架設ニ關スル竣功明細書様式左ノ通改正シ明治三十六年度分ヨリ施行ス

明治三十六年十二月二十六日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

現計		前年度決算		本年度決算		計		残高	
科目	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額
括									
第一切+局内電話架設(増設)(修繕)工事									
陸線ノ部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海底線ノ部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通信器械ノ部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海底線陸揚室ノ部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給與ノ部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
船ノ部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第一合計									
各別電信架設及修繕ノ内									
第二切+局内電話架設(増設)(修繕)工事									
(區分上ニ同シ)									
第二合計									
總計									
(電話工事ノ例)									
第一切+電話架設(増設)(修繕)工事									
局内ノ部									
架空線ノ部									
地下線ノ部									
マンホールノ部									
架橋ノ部									
給與ノ部									
船ノ部									

備考	明治何年度	何ノ款	何ノ項	電信(電話)線架設(修繕)工事	竣功明細書	縣名
年月日起工 年月日竣功						
仕済命令済額						
年月日起工 年月日竣功						
仕済命令済額						
總計						

本年度設計總算高	増		減		現計		備 考
	圓	銭	圓	銭	圓	銭	
							第一切+電報機新設(増設)(修繕)工事
							陸 線ノ部
							海 底 線ノ部
							通 信 器 械ノ部
							海 底 線 陸 揚 臺ノ部
							給 與 ノ 部
							雜 ノ 部
0		0		0		0	第一合計
*別電報機新設及増設ノ件							
							第二切+電報機新設(増設)(修繕)工事
(區分上ニ同シ)							
0		0		0		0	第二合計
0		0		0		0	總 計
(電話工事ノ例)							
							第一切+電報機新設(増設)(修繕)工事
							局 内 ノ 部
							空 架 線 ノ 部
							地 下 線 ノ 部
							マンホールノ部
							架 橋 ノ 部
							給 與 ノ 部
							雜 ノ 部

竣工高	現 高		備 考	設計總算高	増		減	
	圓	銭			圓	銭	圓	銭
0		0						陸線何條 何里何丁何間
0		0						海底線何條 何里
0		0						陸揚臺何ヶ所
0		0						途中引込箇所何ヶ所
0		0						通信器械設置箇所何ヶ所
0		0		0		0	0	
0		0						
0		0		0		0	0	
0		0						陸線何里何丁何間
								空架ケーブル何里何丁何間
								地下ケーブル何里何丁何間
								市外線何里何丁何間
								マンホール何ヶ所
								架橋何ヶ所
								加入者決定(局内)何ヶ所
								開通 何ヶ所

昭和三十一年十二月 建設省建設院

雑統計		竣功内訳			
前上中回米増ノ工事		備考	摘要	数量	金額
数量	金額				
0	0		架橋ノ部 (空架線ノ例ニヨル)		
0	0		給與ノ部 手當 給與計		
	0		雜ノ部 運搬費 器具修繕 器機修繕 荷車損料 踏踏手當 何		
	0		第一合計		
	0		第二回ノ電務設備工事 (第一工事ノ例ニヨル)		
	0		第二合計		
	0		總計		

101

昭和三十一年十二月 建設省建設院

雑統計		竣功内訳			
備考	摘要	数量	金額	備考	
	工事用器具 圓頭鋸 何時鋸 昇柱 何				
	勞力 工夫 職工 人 何				
	地下線ノ部 (空架線ノ例ニヨル)				
	マンホールノ部 (同上)				

100

27-3

民國三十六年十二月 總 會計檢閱表

姓名
年月日

FOR







